

2014 年度春期

# 鳥取大学海外派遣プログラム & 国内英語強化プログラム報告書



## 鳥取大学グローバル人材育成推進室

文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択事業





目 次

春期アメリカ英語研修 .....	1
岡 佑樹 農学部共同獣医学科 (2014年度入学) .....	2
門脇 大輔 医学部医学科 (2011年度入学) .....	3
河原 修平 地域学部地域教育学科 (2014年度入学) .....	4
汐見 彩花 工学部物質工学科 (2013年度入学) .....	5
西尾 美和 地域学部地域文化学科 (2013年度入学) .....	6
花本 紗代子 農学部共同獣医学科 (2014年度入学) .....	7
前川 輝雪 地域学部地域教育学科 (2014年度入学) .....	8
吉田 早織 工学部物質工学科 (2012年度入学) .....	9
春期オーストラリア英語研修 .....	10
島崎 真帆 地域学部地域教育学科 (2013年度入学) .....	11
末兼 佳織 医学部生命科学科 (2012年度入学) .....	12
杉本 龍郎 農学部生物資源環境学科 (2012年度入学) .....	13
田家 真波 工学部電気電子工学科 (2012年度入学) .....	14
中山 桂 地域学部地域環境学科 (2013年度入学) .....	15
西垣 光 地域学部地域教育学科 (2013年度入学) .....	16
深内 百合子 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	17
宮地 可奈 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	18
邨上 恭介 工学部電気電子工学科 (2014年度入学) .....	19
春期マレーシアマラヤ大学英語研修.....	20
秋本 弘太 農学部生物資源環境学科 (2014年度入学) .....	21
遠藤 佑貴 工学部知能情報工学科 (2012年度入学) .....	22
小野 萌実 工学部社会開発システム工学科 (2013年度入学) .....	23
神野 晋輔 工学部電気電子工学科 (2010年度入学) .....	24
高山 絹衣 工学部生物応用工学科 (2013年度入学) .....	25
橘 頼之 工学部生物応用工学科 (2014年度入学) .....	26
谷田 真歩 地域学部地域文化学科 (2013年度入学) .....	27
玉櫛 奈緒子 地域学部地域政策学科 (2014年度入学) .....	28
堤亜 矢香 工学部応用数理工学科 (2012年度入学) .....	29
富田 真央 農学部生物資源環境学科 (2013年度入学) .....	30
宮本 菜摘 地域学部地域教育学科 (2013年度入学) .....	31
横山 耀 医学部保健学科 (2013年度入学) .....	32

## 2014 年度春期

<b>台湾銘傳大学英語研修プログラム</b> .....	33
赤嶺 菜緒 地域学部地域文化学科 (2014 年度入学) .....	34
池田 季樹 工学部社会開発システム工学科 (2013 年度入学) .....	35
石原 優希 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学) .....	36
今仁 優希 工学部知能情報工学科 (2014 年度入学) .....	37
小川 智之 工学部社会開発システム工学科 (2013 年度入学) .....	38
小野 真弘 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学) .....	39
梶原 礼成 地域学部地域文化学科 (2014 年度入学) .....	40
坂田 求 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学) .....	41
清水 万由 工学部生物応用工学科 (2013 年度入学) .....	42
下田 有彦 医学部生命科学科 (2014 年度入学) .....	43
谷口 順平 医学部医学科 (2011 年度入学) .....	44
田村 丞 工学部機械工学科 (2013 年度入学) .....	45
中村 裕香 農学部生物資源環境科 (2014 年度入学) .....	46
中村 遼太郎 工学部電気電子工学科 (2012 年度入学) .....	47
堀 結佳 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学) .....	48
榊谷 淳志 工学部社会開発システム工学科 (2011 年度入学) .....	49
三尾 菜々 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学) .....	50
皆木 一磨 医学部生命科学科 (2014 年度入学) .....	51
吉田 花那 工学部機械工学科 (2013 年度入学) .....	52
山本 花菜 工学部物質工学科 (2014 年度入学) .....	53
<b>春期大山短期集中英語研修</b> .....	54
伊藤 麻由 医学部保健学科 (2013 年度入学) .....	55
出口 知絵 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学予定) .....	56
太田 勝也 工学部電気電子工学科 (2012 年度入学) .....	57
岡本 陸 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学) .....	58
景山 和仁 工学部知能情報工学科 (2013 年度入学) .....	59
木内 美月 工学部物質工学科 (2014 年度入学) .....	59
酒井 恵里香 医学部医学科 (2011 年度入学) .....	61
佐田 吉隆 大学院医学系研究科 (2013 年度入学) .....	62
柴田 未来 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学予定) .....	63
投石 浩次 医学部医学科 (2013 年度入学) .....	64
西山 綾乃 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学予定) .....	65
槁本 朱音 農学部生物資源環境 (2014 年度入学) .....	66
久本 修一郎 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学) .....	67
藤 雅子 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学) .....	68
村田 桃子 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学予定) .....	69
山本 朋実 工学部機械工学科 (2013 年度入学) .....	70
渡部 桃子 医学部医学科 (2011 年度入学) .....	71

付属資料 ..... 72



## 春期アメリカ英語研修

国・地域：アメリカ合衆国

研修機関：アーカンソー大学

参加者数：8名（島根大学より6名別参加）

期間：2014年2月28日（土）～3月22日（日）

内容：島根大学と大学間協定を締結しているアメリカ合衆国アーカンソー大学にて実施しています。鳥取大学と島根大学の学生のためのプログラムです。アーカンソー大学英語学習センター（Spring International Language Center）での授業（英会話・文法・発音練習）だけでなく、リーダーシップワークショップやアーカンソー大学教員の講演会等も受講できます。ホームステイ体験、カンバセーションパートナーとの交流、豊かな自然の中での野外活動等、様々な体験を通して、実践的な生きた英語を学ぶプログラムとなっています。



写真：鳥取大学と島根大学からの参加者全員での記念のコマ

岡 佑樹 農学部共同獣医学科 (2014 年度入学)

私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、ある先輩の「“Thank you.” と “Sorry.” が言えればなんとかなる！」という一言でした。それまで私は海外に興味がありつつも、英会話への自身の無さからなんとなく遠いことのように感じていました。先輩の一言を受け、海外への憧れを温めているだけでは何も変わらないと思い、このプログラムに参加しようと思いを決しました。

プログラムに参加して思ったことは「何もわからなくても、なんとかなる！」ということでした。アメリカに入国した時、周りの人が話す言葉は呪文のよう。聞き取れないし話せないし、3 週間もこんなところで生きていけるのだろうか和本気で心配してしまうくらいでした。しかし、アーカンソーの空港であたたかく出迎えてくれたホストファミリーをはじめとして、SILC の先生方、カンパセーションパートナー、島根大学・鳥取大学の仲間たち、店員さんなど、出会う人々がいつも助けてくれました。語学力向上を目標としているプログラムではありますが、それ以上に人の温かさに触れた 3 週間でした。私が何か話そうとすると、全神経を集中させて何とか聞き取ろうとしてくれる優しさが伝わってきました。文法めっちゃくちゃ私の英語を遮らずに最後まで聞こうとしてくれた姿勢があったからこそ、話すことに対して恐れがなくなったように思います。はじめはたった 3 週間の付き合いだと思いましたが、プログラムを終えた今、ずっと付き合っていきたいと思える人間関係を得られたと感じています。また会いに戻ってくる、という新しい目標に向けて頑張ろうと思います。

また、このプログラムで得られたもう一つの大きな成果は、臨機応変に対応する力でした。初日から、大雪の影響で飛行機が遅れその後の授業予定も大幅に変更されました。しかし、その不便さも合わせて楽しんでしまえ、と臨機応変に気持ちを切り替えることができました。大事なのは気の持ちようだと気づくことができたのは、私の今後に大きな影響を与えてくれると思います。日本でもこの学びを生かして、毎日を新鮮に大切に生きたいです。



門脇 大輔 医学部医学科 (2011 年度入学)

私がこのプログラムを知ったのは、学校掲示板の募集要項を見たことがきっかけです。海外に行って自分の現段階の語学力を試し向上させたいと思ったこと、以後まとまった時間をとれる最後のチャンスであるかもしれないと思い、この英語研修に参加しました。そしてプログラムに応募するにあたって自分を後押しした最大の理由が、自分を何か変えたいという気持ちでした。新学期から始まる病院を実際一年間回る実習を前に、将来医師を志す身としてのビジョンが全く見えなかった自分に何かきっかけが欲しかったのだと思います。私自身小学生の頃アメリカに二年半ほど移住経験があり、その時培った英語を使って海外で活躍できる人間になりたい。少なくとも大学に入学する前はそのように大きな夢を描いていました。しかし入学後は部活や、目の先の定期試験に追われ、普段の生活でいっぱいになっていったように思います。この研修によって自分の将来についてより真剣に向き合えたのではないかと思います。

研修先では、かけがえのない時間を過ごすことができました。ホストファミリーとの日常生活はもちろんアーカンソー大学での授業でもすべて英語で過ごしました。一日に日本語を全く話さない日もあり、授業最終日に行われるリスニングテストでは、初日に受けた時より明らかに容易に解答出来た感覚がありました。三週間という短い期間でも全員英語能力が向上したことを少なからず実感したかと思います。また島根大学、鳥取大学からの日本のクラスメートと一緒に過ごす時間が多かったのですが、このメンバーだからこそ最高の時間を過ごせたのではと思っています。母国語ではない英語を言葉にしてコミュニケーションをとるクラスメートの姿を見ました。なんとか相手に伝えようという思いがあるならば、世界どこでも渡り歩けるのだらうと強く彼らから学びました。他の私より年下のクラスメートからすれば、一人だけ米子キャンパスから四年生がプログラムに参加していて少し異質に映ったかもしれませんが、そんな私を受け入れてくれて心から楽しいと思わせてくれた皆さんに感謝しています。

この研修を通して、以前から考えていた USMLE (United States Medical Licensing Examination、米国医師国家試験)の受験をすることを決意しました。臨床留学は簡単な事ではありませんが、この研修の経験を活かしてチャレンジしてみたいと思います。本当に楽しく、忘れられない研修となりました。



河原 修平 地域学部地域教育学科 (2014 年度入学)

私はこのプログラムで様々なことを経験することができた。平日の午前中には授業が行われる。授業は2コマに分けられ1つはグループでの活動や日常会話で使う熟語などを学び、もう一方の授業では基本的な事柄を学習し英語学習の土台をかためることができた。また、午後に授業があることもあり自らの性格を4つの色にグループ分けしたり連想ゲームをしたりなど英語により親しみやすくなるアクティブな学習を行った。平日の大半の午後にはカンバセーションパートナーとの自由時間やボンファイヤー、ホストファミリーとの交流を行った。私のホストファミリーは子どもが10人もいる大家族で私はよく子どもたちと鬼ごっこやかくれんぼや様々なことをして遊んだ。また、私のカンバセーションパートナーはとても積極的でショッピングモール、ディナーやトランポリンなど様々なところへ連れて行ってとても充実した活動ができた。現地の高校にも行くことができた。実際に高校の授業を体験してみると日本との違いや日本の教育のメリット、デメリットをはっきりと理解することができた。高校見学を通じて高校生たちとも仲良くなることができ積極的に自発的な会話が行えた。その日の午後にはハイキングを行った。前日に雨が降っていたためコンディションは悪かったが友達と協力しなんとか頂上にたどり着くことができた。頂上からの景色は絶景でおそらく日本では見ることのできないものであった。また、最後の週の後半にはさよならパーティーが行われた。サヨナラパーティーでは教師、カンバセーションパートナー、生徒がそれぞれ出し物をしなければならなかった。わたしたちは歌を披露し皆を楽しませることができた。様々な人々と交流することができ英語上達につなげることができた。また、研修の間常にアメリカの人々は話しかけてくれ何気ない時間が私にとって英語学習の場となった。3週間で英語力が上昇したかは分からないが表現力や自らの意見を積極的に他人に伝えることができるようになった。今後の私の大学生活につなげていき将来の進路選択に活かしていきたい。重要なのはこれからの私である。



汐見 彩花 工学部物質工学科 (2013 年度入学)

今回のアメリカ英語研修への参加は、私にとってとても価値のある経験になりました。アメリカの大学での英語の授業、多くの活動、ホームステイなどで、三週間ずっと本場の英語環境に自分の身をおけたことが、日本で経験できない一番の経験だったと思います。もちろん、どこに行っても英語だらけの環境に最初は慣れず、戸惑うことも多かったけれど、だんだんとその環境に慣れていき、帰国するころには、この環境を離れることがとても惜しかったです。今回の研修で、私はいろいろな国の人と英語で話すことや異文化を知ること、体験することの楽しさを実感しました。グローバル社会を耳にすることがなにかと増えている今、海外に興味を持つことはとても大事なことだと私は思います。私は、今回、一度外国に語学研修に行くことで満足して外国へ行きたいという気持ちが満たされるかと思いましたが、そんなことは一切なく、むしろもっといろいろな国へ行きたいと思うようになりました。帰国した後も、積極的にいろいろな国を訪れて、多くのものを自分の目で見て実際に体験していきたいと思います。さらに、今回の研修で得ることのできた交友関係を絶やすことのないように連絡をとり続けていくつもりです。三週間の滞在で、ショッピングや観光などたくさんの場所に連れて行ってもらいました。次は、私が日本を案内したいと思っています。そのために、海外ばかりではなく日本の文化や伝統、観光地などについてもきちんと勉強して外国の人に説明できる人間になりたいと思うようになりました。研修で感じたことを忘れないように実行していきたいと思っています。

また、今回、私は自分の英語の勉強がまだまだ不十分であることを実感しました。そのことに気づけたことも大きな収穫でした。これを、不十分だった、で終わらせず英語の勉強を続けていき、次に外国を訪れるときは今回よりもさらに上達した英語力をもって訪れたいと思います。「English is your friends!」向こうでの授業で、ある先生が言ってくれたこの言葉をいつまでも忘れずに英語とつきあっていきたいと思っています。



西尾 美和 地域学部地域文化学科 (2013 年度入学)

今回このプログラムに参加して、最も強く感じたことは、自分の伝えたいことがうまく伝えられない悔しさだった。ホストファミリーやカンパセーションパートナーともっと話したいことがあったのに、自分のスピーキング能力が低すぎて、語彙が出てこなかったり、発音が悪くてうまく伝わらなかったりと悔しい思いをした。それと同時に自分のスピーキング能力を向上させたいという意欲が高まった。やはり、3 週間だけでは上手に英語を話せるレベルまで達成できなかったのも、これから日本で毎日英語の勉強を少なくとも 1 時間して、英語の音楽などを聞くことによって英語に慣れる努力をしようと思った。この 3 週間で感じたことを大切に持ち続けたまま、これから日本でどのように英語に触れて行くかが英語の能力を向上させる際に重要になるだろう。また、今回のプログラムに参加して、長期留学について真剣に検討するようになった。3 週間という期間は、英語を使う良い機会にはなったが、英語を自然に使えるようになるには、この期間は短すぎた。もっと英語を自然に使えるようになりたいと強く感じ、その為には長期留学が良い方法ではないかと考えた。今までも長期で留学してみたいと漠然とは考えていたが、今回のプログラム参加をきっかけに、長期留学を具体的に考えるようになった。実際に長期留学をするには、金銭面や授業面など様々な困難があり、実現できるかどうかは分からないが、条件が整って長期留学できるようになった時に備えて、これからも英語の勉強を続けていこうと思った。本当に今回の経験をひとつも無駄にしたいと感じた。今回唯一残念だったことは、他の日本人の生徒と一緒に研修をしたので、日本人の生徒が集まるとどうしても日本語を話してしまうことが多かったということだ。初めのうちは英語を話そうとお互いに努力していたが、だんだんと日本人だけにいるときは日本語を話すことが多くなり、せっかくアメリカにまで来て英語の勉強をしているのに、日本語を話してしまうことが残念だった。もし今後海外に語学研修に行くなら、日本人が極力いない環境でチャレンジしたいと思った。



花本 紗代子 農学部共同獣医学科 (2014 年度入学)

私は今回のアーカンソーが初の海外での滞在の体験となりました。研修中初めて使った英語は機内での“Water Please.”でした。私の発音は日本語に近い音で区切るような、いわゆる「ローマ字読み」だったので伝わらず、何度も聞き返されてしまいました。このとき英語の発音の大切さを痛感しました。他にもリモコンが壊れていてモニターが映らず、隣の席の方に助けてもらいながらキャビンアテンダントさんに説明したことを覚えています。研修のはじめのときは自分の英語がネイティブの人に伝わるのが本当に楽しくてホストファミリーともくだらない話をたくさんしていました。はじめは早口で話される英語や英語圏独特の挨拶がうまく聞き取れず困惑することも多かったです。常に英語であふれた環境で過ごしているうちに神経を集中させなくてもすんなりと英語を聞けるようになりました。だんだん英語を使い慣れ、研修も終わりに近づくと冗談や皮肉も言えるようになり、会話がより楽しくなりました。また、研修を通してたくさんの人と出会い、改めて個性は人それぞれ違うという当たり前のことに気づくことができました。逆に全く違う人たちがアクティビティ等を通じて同じように楽しんだり喜んだりすることも興味深く感じました。

英語を使う経験を通し、日本語を見つめなおすこともできました。例えば否定を用いた疑問文（～しない？など）に対する答え方について、英語では行為に対して Yes か No を答えますが、日本語では相手に対して賛成か、反対かで Yes、No を答えます。日本語の考え方には相手に対する自分の気持ちを全面におしだすようなニュアンスがあると感じました。常に滞在中はこのギャップに気を遣って話していたのですが、気を抜いて間違えたり Yes と同時に首を振ってしまったりすることがありホストファミリーをたびたび困らせてしまいました。それでもホストファミリーは私の考え方を理解しようと話を聞いてくれてとてもうれしかったです。

最後に、私は英語をもっと勉強したいと思うようになりました。単純に英語が好きになったからというものもありますが、日本語以外の別の言語で考えることで考えが整理されたり、言いたいことが明確になったりしたことをきっかけに、他の言語からの視点の大切さに気付いたからということも大きな理由の一つです。研修中に身に付けた聞く力を磨くため、洋楽や聞く英語に力を入れていきたいと思います。



前川 輝雪 地域学部地域教育学科 (2014年度入学)

語学研修に参加して感じた自分自身の変化については、数多くあります。一つ目は、視野が広がったことです。語学研修中に、多くの人たちに出会うことができました。日本と同じような文化を有する人や、そうでない人、違う言語を話す人などさまざまな人がいました。そのような人たちと接していく中で、自分の視野の狭さに気づきました。ものごとをさまざまな点から見るできるようになったと感じています。二つ目は、不測の事態にも柔軟に対応できるようになったことです。研修中は、スケジュールが突然変更されることが少なくありませんでした。最初は、予定と変わったことが突然行われることに対して、とてもストレスを感じていました。しかし、だんだんとそのような感情はなくなっていき、柔軟に対応できるようになっていきました。研修先で得た経験で今後も続けていきたいことは、どんな人にもフレンドリーに接していくことです。アメリカの人たちは、どんな人にも優しく気軽に会話をします。アーカンソー大学周辺を走っているバスに乗っていたとき、見ず知らずの人同士の会話をたくさん見かけました。たくさんの人と話し、いろんなことを共有することで自分の世界が広がると思います。そういった点で、どんな人にもフレンドリーに接していけるよう努力したいです。改善していききたいことは、遠慮するということをできるだけ捨てることです。日本人の悪い癖は、遠慮をしすぎるところであると現地の先生にも言われました。できるだけ遠慮を捨て、自らが周りのみんなを引っ張っていくことが大事であると、リーダーシップの授業で学びました。私自身も、今後チャレンジしていききたいことは、世界中で私の友達を増やしていくことです。もっと世界の文化を知り、世界中のいろいろな人たちと会話することが現在の私の目標のひとつでもあります。世界中で友達を増やすために、いろんな国を訪れようと考えています。まずは、鳥取大学を起点に、いろんな国々の人と友達になりたいです。



吉田 早織 工学部物質工学科 (2012年度入学)

私は英語とコミュニケーション能力を高めるためにこのプログラムに参加した。三週間アメリカでホームステイをした結果、目的を果たすことはできたと思う。

ホームステイ先には私を含めた日本人の学生二人で滞在することになったが、家でも極力日本人同士であっても英語で会話することを心掛けた。知らない単語は辞書ですぐに調べたり、直接ホストファミリーに聞くなどして英単語を学んだり、コミュニケーション能力の向上に努めた。日本では発音をあまり重要視しなくても成績には関係なかったが、現地ではfやlの発音を正しくしなければ通じないことがあったので会話のときに毎回注意するようにしていると、発音が徐々にしやすくなった。ネイティブの発音を聞いてから真似をする機会が多かったのがよかったのだと思う。最近ではTOEICの勉強が主になっており、日常会話の勉強が不足していたことを実感した。日本語にはない表現や、日本の学校ではあまり教えてくれないイディオムなども学ぶことができた。また、アメリカでは積極的に新しいことにチャレンジすることができた。知らない人にも話しかけてみたり、一緒にアクティビティで騒いでみたり、自分から行動する事も心掛けたが、それ以上にアメリカ人が優しく、だれにでもオープンなことを強く感じた。学校では少人数制で授業が行われたために、集中でき、質問も気兼ねなくすることができた。今までは将来海外で働いてみたいという気持ちはあったが、自信はなく、旅行で行ければいいかなと変えようとした時もあったが、今回のプログラムを通じてさらにその気持ちが強く、明確になった。そのためにはビジネス英語だけでなく、日常会話にも力を入れることが必要だと感じた。三週間は長いようであつという間に過ぎ、まだ学びたいと思いつつ帰国することになった。大学の間にもう一回は海外で勉強してみたいと思う、もっと英語を話せるようになって、ホストファミリーに会いに行きたい。私はプログラム参加をして参加費以上の経験を得ることができた。



ネイティブの発音を聞いてから真似をする機会が多かったのがよかったのだと思う。最近ではTOEICの勉強が主になっており、日常会話の勉強が不足していたことを実感した。日本語にはない表現や、日本の学校ではあまり教えてくれないイディオムなども学ぶことができた。また、アメリカでは積極的に新しいことにチャレンジすることができた。知らない人にも話しかけてみたり、一緒にアクティビティで騒いでみたり、自分から行動する事も心掛けたが、それ以上にアメリカ人が優しく、だれにでもオープンなことを強く感じた。学校では少人数制で授業が行われたために、集中でき、質問も気兼ねなくすることができた。今までは将来海外で働いてみたいという気持ちはあったが、自信はなく、旅行で行ければいいかなと変えようとした時もあったが、今回のプログラムを通じてさらにその気持ちが強く、明確になった。そのためにはビジネス英語だけでなく、日常会話にも力を入れることが必要だと感じた。三週間は長いようであつという間に過ぎ、まだ学びたいと思いつつ帰国することになった。大学の間にもう一回は海外で勉強してみたいと思う、もっと英語を話せるようになって、ホストファミリーに会いに行きたい。私はプログラム参加をして参加費以上の経験を得ることができた。



## 春期オーストラリア英語研修

国・地域：オーストラリア

研修機関：アデレード大学

参加者数：9 名

期間：2014 年 2 月 14 日（土）～3 月 22 日（日）

内容：アデレード大学は、オーストラリアで 3 番目に古い大学で、いままでに 5 名のノーベル賞受賞者を輩出するなど、オーストラリア屈指の学術研究機関です。本研修では、アデレード大学 General English Academic Program に参加し、英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングスキルの向上を目指します。大学周辺には、オーストラリアの歴史や文化、自然に関する博物館や、アートギャラリー、植物園、動物園があり、オーストラリア文化、歴史や自然について知見を深めることができます。また、オーストラリア人家庭でのホームステイを通じて、ホストファミリーからオーストラリアの日常や習慣を学べます。



写真：アデレード市内の街並み

島崎 真帆 地域学部地域教育学科 (2013 年度入学)

私はオーストラリア英語研修に参加しました。英語を話すことに苦手意識がありましたが、一歩踏み出して世界を広げたいと思い、参加を決めました。

半日が授業で、半日が自由時間のプログラムでした。間違っても否定せず上手く授業に取り入れてくれる先生、身ぶり手振りも使いながらお互いに伝え合い理解し合う生徒同士、そのような雰囲気でのレベル別授業であったため、授業に積極的に参加することができました。この研修の参加者はほとんどが日本人で、特に私のクラスは全員日本人でしたが、ホームステイをしたり、アクティビティに参加したりすることで、現地の方々とも関われ、英語に囲まれた生活を送ることができました。ホストファミリーは、とても親切で、映画を見たり、観光地に連れて行ってもらったりと、たくさんの楽しい時間を過ごしました。聞き取れないときは、繰り返し言ってくれたり言い方を変えたりしてくれました。上手に英語を話すことができなくても、伝えようと努力をすれば分かってもらえるということは、自信にもつながり、英語でコミュニケーションをとることを楽しいと感じることができました。また、私のホストファミリーは南アフリカ出身であったことや、オーストラリアには様々な国の人がいたこともあり、様々な文化や考え方に触れる良い経験となりました。町で出会う人たちも、とてもフレンドリーで温かかったです。

今回の研修を通して、リスニング力をはじめとする英語力だけでなく、現地の方と関わる機会を作ったり、授業でのディスカッションで意見を言ったりと、積極性を身に付けることができたように感じます。

私は将来教師になりたいと考えているので、英語教育や国際理解教育が重視されている今、この研修に参加して、実際に様々な人と関わったり異文化に触れたりしたことは、貴重な経験になり、大きな自信となりました。海外や他文化のことをもっと知りたいと感じた一方で、日本について興味を示してくれているのに上手く話を広げられないこともあり、日本のこともまだまだ知らないことだらけであると実感しました。この経験を本当に意味があるものとして生かすことができるよう、英語や海外のこと、日本のことをこれからさらに学んでいきたいです。



末兼 佳織 医学部生命科学科 (2012 年度入学)

語学研修に参加する前は、狭い教室の中で自分と同じ専門を勉強している人とは話さず、新しい人と会うこともなく毎日が同じように感じていました。ですが、このプログラムに参加して、事前講習も含めさまざまな年齢・分野の人と話すことができ、久しぶりに新しい人と会うことができ新鮮な毎日を送ることができたと思います。授業の内容も良く、スピーキング・ライティング・リーディングがバランスよく学べるプログラムだったと思います。クラスの半分以上が日本人だったことが最初は残念でしたが、中国やタイやスリランカの人たちと授業が終わった後に、でかけて食事をたのしんだり故郷の話を聞いたりと国際交流を楽しめる機会がありました。外国の生徒が少ない分、自分から誘わないと関われないので、自分から動いて交流する練習になった気がします。3月の私の誕生日にはクラスでケーキを買って祝ってくれ、最後にはこのクラスで良かったと思えるようになりました。ホームステイも運がよく、生徒と交流をもってくれようとする家庭でした。食事は毎日おいしく、普段はホストファミリーと3人暮らしでしたが、他の家族と食事する機会があれば連れて行ってくれました。ホストファミリーと過ごす時間が一番、勉強になった気がします。夕食中には、ニュースを見て、解説してもらい、それについての意見も聞きました。自分の意見と同じ部分も違う部分もあり、英語とはまた別の勉強もできた気がして、面白かったです。ただ、人見知りをしてしまい、初対面の人とはあまり話せなかったのが、次は、もう少し強気でいけるように頑張りたいです。

このプログラムは引率の人が行きも帰りもついてくれる信用できるプログラムでしたが、欲をいうならば、このプログラムが募集されていたときに書かれていた通り、自分で飛行機を予約し、つきそいの人なしでいくのも、勉強になったと思うので、そのような経験もしてみたいです。アデレード大学での日本語の授業も、見学するだけになってしまったので、事前に向こうの学生と同じ課題を渡しておいてもらって、議論に参加してみたいです。



杉本 龍郎 農学部生物資源環境学科 (2012年度入学)

現地での授業形式は、4人の少人数のグループで行っていく形式だったので、全体での授業よりも班の中で発言する機会が多く持てたことで、自分の知ってる範囲の言葉の中で、いかに伝えるかということを考えることが多く、また他の人の話していることから学ぶことができ、非常に自分のためになったと思います。特にリスニングは行く前よりも一番伸びたところだと思いますが、スピーキングの方では自分の中ではなかなか伸びたという実感がありませんでした。これは日本に帰ってから何かしら対策をしていこうと思っています。また授業で行ったプレゼンテーションでは、話す内容をだいたい確認できていましたが、いざプレゼンテーションするときになると、話す内容が緊張で頭の中から出てこず、結局原稿をほとんど見てしまっていたので、もっと準備をしておくべきだと感じましたが、この経験は今後にかしていけると思いました。

今回の英語研修はホームステイだったので、学校が終わって家に帰ってからも家族と会話したり、いっしょに遊んだりすることがあり、現地のこととかについていろいろなことをすることができたと思うし、日常会話をすることができたりしたので、非常にいい経験になりました。他にも休日には、いろいろな場所に連れて行ってもらって現地の文化に触れあうことができました。子供が3人いていつもとてもにぎやかな家族ですごく楽しかったです。またアデレード大学の日本語を学んでいる学生といっしょに日本語の授業に参加して、ちょっとした会話をすることができ、日本のどういうことに興味があるのかということが少しわかりました。

今回の英語研修に行く前までは全くと言っていいほど、今後の進路についてはなりたい職業のようなものがなかったのですが、今回行ってみて英語を一生懸命勉強して海外で働くのもありかなと思ったというのが今の段階での自分の考えです。しかし、今回の研修から学ぶ



ことが非常に多く、授業の中で今の自分に何が足りていないかということがしみじみとよくわかりました。とりあえずこれからの学生生活の中で自分に必要だと思ったことをこつこつとやっつけていこうと思いました。自分は院に行こうと思っているので、それを選ぼうえでも英語というものを1つの選考基準にしようかなと思いました。



田家 真波 工学部電気電子工学科 (2012 年度入学)

私は2月14日から3月21日までの5週間、オーストラリアにあるアデレード大学へ語学研修に行ってきました。出発する3日前までテストや実験に追われ、英語の勉強はおろか、荷造りすらろくにできていない不安いっぱいな状態での出発でした。オーストラリアに到着した当日、もちろんですが英語一色の世界で、大学受験以来まともに英語を勉強していなかった私はホストファミリーとコミュニケーションが全く取れず職員さんに通訳をしてもらわないと意思の疎通ができない状態でした。また、出発直前に作ったクレジットカードは使い方や仕組みが分からず5週間生きていけるのかとても心配でした。とにかくファミリーと話すときは常にペンとノートと電子辞書を持ち、わからない単語があるとつづりを聞きその場で調べなんとか意思の疎通をとっていました。学校は大学附属の語学学校で授業は午前授業だと8時半から12時半、午後授業だと12時半から4時半の4時間でした。私のクラスは日本人しかおらず鳥取大学の英語の授業とそれほど変わらないように感じました。しかしに鳥取大学の授業と違いみんなやる気があり、聞き取れないことがあると聞き取れるまで聞き、困っている人がいるとみんなで助け合うとてもいいクラスでした。授業の前後は友達と主にハブという大学の施設で宿題をしたり、ショッピングをしたりして楽しみましたが、オーストラリアのお店は閉店時間が早く、17時にはほとんどのお店が閉まってしまうのが少し不便でした。休日には友達とビーチに行ったり、美術館や博物館、動物園などを巡ったり、お祭りに行ったりして過ごしていました。中でも1泊2日で行ったカンガルー島はとても素敵なところでした。帰るころには日本に帰るのが嫌になるくらいオーストラリアが好きになっていました。5週間ではそんなに英語は話せるようにはなりませんでしたが、英語がほとんど使えなくても意思の疎通はできるということを学びました。日本でも英語を学ぶことを継続していきたいと思います。



中山 桂 地域学部地域環境学科 (2013 年度入学)

私は今回オーストラリア英語研修に参加しました。このプログラムに参加する前、私は英語があまり得意ではなく、英語が全く話せない、聞けないといった状態でした。また自分自身の発音に自信がなく英語で発言することへの抵抗がとてもありました。しかし、語学学校での英語の授業は日本とは異なり、板書のような受身の授業ではなく、発表やコミュニケーションの授業が多くあり、だんだんと英語で発言することへの抵抗がなくなりました。そして、授業で習った内容は現地ですぐに使えるものが多く、その場ですぐ実践的に使うことができました。語学学校の屋外に出る授業では、美術館、博物館などを訪れ、オーストラリアの歴史や文化についても学びました。ホームステイでは、生活習慣も文化も言語も異なる家庭に入ることで、異文化理解を深め、ホストファミリーとの会話を通してより実践的な英語を学ぶことができました。

この研修に参加したことで、私自身の今までの学生生活を振り返り、また、残りの学生生活をどのように過ごすかということについて深く考えました。今回出会った現地の学生の多くが、それぞれの信念を持ち、母国だけでなく世界を視野に入れて勉強していました。私自身地域学部地域環境学科に所属しており、将来、国際的に環境保全に取り組みたいと思っていましたが、今回出会った学生たちのように勉学に対して積極的に行動していたかというところではありませんでした。今回このプログラムを通して、得た刺激をこれからも忘れずに自身がいる環境をフルに活用し、より勉学に励みたいと思います。また、今回のプログラムで出会った現地の学生や他大学の学生にとってもよくしていただき、このオーストラリアでの5週間の生活は私にとって一生忘れられない日々になりました。このプログラムに参加していなければ、一生会うことも話すこともなかったかもしれない出会いだったのでこの縁を大切にしていきたいと思います。



西垣 光 地域学部地域教育学科 (2013 年度入学)

私は大学に通っている間に必ず海外へ行こうと思っていた。だが勇気がなくてなかなか決心がつかず、ようやく決心がついて今回の研修に参加した。私にとってオーストラリアは初めての海外であり、飛び立つ前は本当に不安でしかたがなかった。今回の研修において、私はとても恵まれていたと思う。なぜならとても親切なホストファミリーや先生、クラスメートと一緒に5週間を過ごすことができたからである。語学学校は日本人ばかりで自分が想像していた学校生活とは異なり、現地の人とコミュニケーションをとる機会も少なかったが、私のホストファミリーは私とたくさんコミュニケーションをとってくれた。だがそのなかで、自分の言いたい事を英語で話すことが出来ず、自分の語学力の未熟さを痛感した。ホストファミリーや現地の人たちの温かさに触れることができ、またオーストラリアの文化を学んだり、アデレードの博物館やビーチなどの観光地を訪れたりして、私はオーストラリアのことが大好きになった。本当の家族のように私を受け入れてくれたホストファミリーに出会えて良かった。またアデレード大学の様子を見たり、講義に参加させてもらう機会もあったりしたが、現地の学生たちが私たちより真剣に学習に取り組み、将来や身の回りの事を真剣に考えている姿に刺激を受けた。

研修を終えて、自分の性格や考え方を変える良い機会にもなったと感じた。日本とは言語も文化も全く異なる場所へ行き、初めは戸惑いながらも徐々に生活に慣れていき、その事を自分自身が感じ取ることができた。勇気を出して進んでみれば意外となんとかなると感じた。異国で生活することによって見えてくる日本の良い点と悪い点や、私自身の生き方を再認識することができ、今回研修を経験させてもらったことに対して満足している。もっと早く海外研修に参加すべきだったと今は思う。ただ、自分の未熟な語学力を磨く為に海外研修に参加するのではなく、ある程度語学力を身につけたうえで留学すべきだったと後悔をした。今回の研修を機に、もっと日本に対する知識を深め、海外の人に日本をアピールできるほどの語学力を身につけ、そしてもう一度海外へ行きたいと考えている。



深内 百合子 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

高校生の時から、オーストラリアへ留学したいという目標があった自分にとって、このプログラムが設置されたのを聞き、迷い無く応募しました。語学研修へ参加するのは2回目ですが、今回は、前回の研修の時よりも2週間長い、5週間のプログラム。以前参加した3週間のプログラムでは、3週目に、やっと現地や英語に慣れた時に帰国しなければならず、物足りない思いをしたので、5週間という時間は自分にとって丁度良い期間でした。現地の大学の施設を利用できる事と、ホームステイを経験できる事に加え、治安がとても良い事が魅力的なプログラムです。研修に参加して、最初に感じた事は、中学高校レベルの簡単な文章なのに、いざ会話をするととなるとこんなにも難しいのか、と衝撃を受けました。自分自身の語学力、文化の違い、現地の人の生活など、実際に研修に参加しないとわからない事がたくさんあるので、今回この研修に参加できたことはとても良い経験です。

語学学校では、明治大学や岡山大学をはじめとする他大学の学生と交流ができ、お互いに高めあっていける仲間ができました。週末には、友達と自分たちで、オーストラリア国内のツアーに予約して参加するなど、自分から主体的になって動く事によって、様々な経験が出来たと思います。大学では、私が日本で写真部に所属しているので、Facebookで現地の大学の写真部にコンタクトを取ってみるなどして、友達の輪を広げました。大学で出会った外国人の友達と、誘ったり誘われたりで頻りに食事に行きましたが、そこでは趣味の会話だけに留まらず、原子力発電の事やエネルギー問題についてといった、大学生ならではの話題で、意見交流をする機会がありました。この事は自分にとって凄く貴重な経験だったと思います。自分の国の問題や世界の時事に、もっと目を向けるきっかけになりました。そういった話題について興味を向けて、自分の意見を正しく正確に英語で言えるように、改善を重ねていきたいです。その為に、アデレード大学の学生と頻りに連絡を取り、様々な話題について話す事を、これからも続けていこうと思います。また、そうすることによって会話の練習や、自分のモチベーションを常に高く維持していこうと思います。今回の経験を活かして、次は5週間よりも、もっと長い、1年という長期留学にチャレンジしたいと考えています。



宮地 可奈 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

海外研修に参加した人の話の中で、「視野が広がった」という言葉をよく聞きます。しかし、私の中ではその言葉の具体的なイメージがわからず、自分の将来の方向性について未定のまま大学生活を続けていたため、海外に行くことは自分にとって大きな意味を持つのではないかと思いこの研修に参加しました。初の海外ということもあり、楽しみと期待を持つ一方で大きな不安がありましたが、帰ってきてみれば本当にこの研修に参加してよかったと思っています。

この研修での一番の収穫は自分の大学生活、また将来について考えさせられたことです。アデレード大学での授業を学生と一緒に受ける機会をいただき、その時の学生の授業への積極性は印象的です。先生からの問いに対して手を挙げて発言すること、わからない時には授業中に質問するなど、小学生の時にはしていたことも成長するにつれ徐々に消極的な授業態度になっていた自分を反省しました。また日本語の授業を取っている学生と話をしたときに、日本語の上手さを褒めると、「日本語は3年勉強しているから大体話せるよ。」という答えが返ってきました。英語の勉強を7年もしているのに上手に話せない自分を恥ずかしく思いました。このような経験を通して自分が大学で何をすべきなのか考えた時、就職の際に求められる英語力を鍛えることであったり、専門分野の知識をしっかりと自分のものにするのであったり、自分が将来何を職業として持っていたいのか分からない私はインターンシップに行くことが、大学ですべきことであると感じました。大学で本当に何をして過ごすのかは自分次第です。自由だからこそ自分から積極的に動いていかなければならないと思いました。

この研修ではたくさんの人との出会いがありました。研修に参加した鳥取大学の学生、サポートして下さった鳥取大学の先生、アデレード大学で出会った日本の他大学の学生、授業をして下さった先生、アデレード大学に通う学生、そしてホストファミリーのみなさん。オーストラリアでの出会いは全て私にとってかけがえのないものです。私がこの研修を意味のあるものとして終わることができたのはこの出会いがあったからです。そして、研修に参加したいと言った私を応援してくれた家族にも、関わって下さった全ての方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このつながりをいつまでも大切にしながら、大学生活を送っていかうと決意しました。



邨上 恭介 工学部電気電子工学科 (2014 年度入学)

今回の研修で最も心に残った経験は、ホームステイ先の家族と過ごした日々です。最初は少し不安もありましたが、ホストマザーをはじめ子供たちも快く受け入れてくれたため、すぐになじむことができました。平日は学校が終わって家に帰ると、毎日のように小学生の子供たちとスポーツやゲームをして遊びました。遊びの中で覚えた英語もたくさんあります。週末は、たくさんの観光地やイベントに連れて行ってくれたり、三日間、川にキャンプに行ったりしました。どれも素晴らしい体験でした。今後も家族と連絡を取り続けたいです。しかし、反省点もたくさんあります。思ったよりたくさんコミュニケーションをとれなかったことです。研修前、ある程度日常的なことは話せるつもりでした。いろいろな状況で、自分の伝えたいことはなんとか伝えられていたからです。しかし、家族が話しているネイティブの会話はとても速く、最初はほとんど聞き取れませんでした。そのため、すんなり会話に入っていけないことがしばしばありました。さらに、家族との会話は、ただの英語のスピーキングの練習のような会話とは違い、生活の一部であるということに、研修前は気付いていませんでした。いままでの英語の学習は、様々な表現を身につけ、自分の言いたいことを伝える練習しかしていませんでした。そのため、例えば自分の経験を説明したり、意見を言ったり質問などをすることはできても、家族内でのたわいもない会話や、ちょっとしたやりとりをナチュラルにすることができませんでした。最終的には耳も速いスピードにある程度慣れ、家族との生活にもかなり慣れたので、最初よりはナチュラルに会話ができたとはいえます。しかし家族との会話は自分の思っていたよりもはるかに難しく、順調にはいきませんでした。この経験は必ず今後の英語学習に生かさなければなりません。まだ具体的な今後の学習方法は考え中ですが、語彙力を上げないとこれ以上の成長はないと感じたので、当面は語彙力の向上に努めていきたいです。



## 春期マレーシアマラヤ大学英語研修

国・地域：マレーシア

研修機関：マラヤ大学

参加者数：12 名

期間：2014 年 2 月 22 日（日）～3 月 16 日（月）

内容：首都クアラルンプールに位置するマレーシアで最も古い権威あるマラヤ大学で、英語の授業（語彙、聴解、文法、会話、演説法、作文）を学ぶ他、英語で行われる Outdoor Class Activity に参加し、マレーシアの自然・歴史・文化に触れることが出来ます。更に、2 日間のホームステイでは、マレーシアの家庭の雰囲気を経験することが出来ます。研修期間中、マラヤ大学の学生がバディとして、学生 1 人ずつにつき、参加学生の授業や生活をサポートしてくれます。



写真：Outdoor Class Activity での様子

秋本 弘太 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

今回の研修は自分にとって最高の思い出であり、また、自分が目指すべきものが少し見えた気がした素晴らしい三週間でした。最高の思い出というのは、もちろんマレーシアで過ごしたバディたちとの様々な思い出のことです。日本にいただけでは出会えなかったであろう最高の友達と出会い、同じときを過ごした最高の時間でした。この思い出は本当に忘れることができない最高の経験になりました。

また今回の研修で一つ大きく変わったと思うのが、英語に対する意識です。英語を学びたいということを中心に思うようになったのです。マレーシアのバディたちは日本人と話す時に英語、マレーシアの人と話す時にはマレー語を使います。最初私はマレーシアの人同士の会話が嫌で仕方ありませんでした。理由は簡単です。私がマレー語を理解できないからです。しかしある日こういうことを思うようになりました。「違う言語を話していてお互いに会話ができない人々同士が意志疎通を図ることができる英語とは何て素晴らしいのだろう」と。このとき、英語を学びたくなるのと同時に世界の広さを少し感じました。バディと同じ時間を過ごし仲良くなっていくにつれて「もっと相手の言っていることがわかりたい」「もっと自分のことを伝えたい」という思いが強くなっていき、それにつれて、英語を学びたいという意欲も日に日に増していきました。その思いのせいか、自分でも自分の成長に気づくほどこの三週間で成長したと思います。はじめはバディの英語が聞き取りづらくてわかったふりをしていたこともありましたが。ただ三週間の最後の週くらいになると全部ははっきりと何を言ったかわからないけどこの人はこういうことが言いたいんだなあという具合に会話ができていると感じる場面があったりして自分の成長に自分でも興奮していました。

「自分が自信をもって行動すれば自然と自分自身にも自信が出てくる！恥ずかしがるな！自信を持って Kota」

これはバディたちが僕に何度も言ってくれたことばです。

恥ずかしがって何もやらなければ何も変わりません。変わりたければ行動するしかない。

とにかく実践あるのみ 夢に向かって Let's try!!!!



遠藤 佑貴 工学部知能情報工学科 (2012 年度入学)

「派遣プログラムの内容について」今回のプログラムでは、一人ずつマラヤ大学の学生とバディを組んで、大学の授業、寮での生活、放課後や休日など研修のほぼ全てを一緒に過ごしました。価値観などの違いもありましたが、宗教や生活習慣といったバディと共に生活したからこそ分かったこともありました。イスラム教のお祈りを見せてもらい、バディと少し踏み込んだ宗教に関する話をしたのも良い経験です。大学の授業では、グループワークやプレゼンテーション、マレーシアの文化学習などがありました。毎日の授業はとても充実しており、時間が過ぎるのもあっという間でした。

「海外での経験について」今回が初めての海外渡航ということもあり、プログラム開始当初は、食事やトイレなどの生活習慣や熱帯の気候といった日本との環境の違いに面食らいました。マレーシアでは辛い味付けの料理が多く、体調管理には常に気を使う必要がありました。日本では当たり前のことが、世界では無く通用しないのだと改めて実感しました。また、田舎の村へホームステイや、伝統音楽の授業、イスラム教のモスク、ヒンドゥー教の聖地バトゥ洞窟の訪問などを通してマレーシアの文化や歴史などを知ることもできました。

「学習成果について」最初の頃は英語で会話をすることに対して抵抗があり、バディと簡単な会話しか出来なかったり、自分の思いが上手く伝わらずもどかしさを感じたりしました。ですが、日にちが経つにつれ徐々に英語で話すことに慣れてきて、自分の英語が伝わると楽しいと思えるようになりました。文法などは少しぐらい間違っているけど、恥ずかしがらず、怖がらず、とにかく話してみようとするのが大切であると実感できたのが大きな収穫だったと思います。

「今後の進路への影響について」今回の研修に参加したことで、出発前にあった英語に対する苦手意識や抵抗が無くなり、英語が通じることは楽しいと感じるようになりました。また、今後グローバル化が進む中で英語の必要性も再認識出来たと思います。日本に帰ってからもマレーシアで感じた英語をもっと理解したいという向上心を忘れず、この研修をきっかけにして語学学習に継続的に取り組みたいと思いました。



小野 萌実 工学部社会開発システム工学科 (2013 年度入学)

私は、今回マレーシアマラヤ大学英語研修に参加して、大きく 2 つの変化がありました。1 つ目は、英語に対する意識の変化です。今までは、英語は自分と関わりのないものだと考えていました。しかし今回マレーシアに行って、英語は人と人をつなぐ大切なツールであると感じました。日本語とマレー語の母国語はお互に通じないけれど、英語は現地のバディだけでなく、子供からお年寄りまで、年齢や国に関係なく通じるものでした。外国で買い物や食事をする時の日常会話はもちろんのこと、外国に友達を作る上でも英語は欠かせないものでした。今回の研修で、現地の素敵な人たちと巡り会ったことで、そのコミュニケーションツールである英語を学びたいと強く思うようになりました。日本語では言えるけれど、それを即座に英語で伝えられないもどかしさや悔しさもあって、もっと自分の英語を上達させたいと思いました。そのために、日ごろから英語の勉強をしたり、英語の音楽や映画に触れたりしようと思います。

2 つ目は、自分の殻を破るということです。現地のバディは優しく、面白いひとばかりでした。日本にいるときは周りの目を気にしすぎていた部分があったのですが、この人たちを間近で見ていると、私も自分らしく生きたいと思うようになりました。また、マレーシアの人々のように暖かく、周りを大切に続ける心を見習いたいと思いました。

今回の研修を通して、自分の世界が広がったような気がします。なぜなら、将来外国や英語に関わりたいたいという気持ちが芽生えたからです。私は工学部なので、工学部で培った自分の知識を生かして、それを外国に伝えられるような職業を探していこうと思いました。また、その前段階として、次は長期留学に挑戦したいです。マレーシアには民族や宗教、環境等において日本と異なる面が多々あり、強い刺激を受けました。世界には自分の知らない国がたくさんあるので、色んな国へ行って日本との違いを肌で感じたいです。



神野 晋輔 工学部電気電子工学科 (2010 年度入学)

「語学研修に参加して感じた自分自身の変化」マラヤ大学のバディ達や、鳥取大学の生徒と3週間一緒に過ごし、時間を有意義に使わなければいけないという思いが強くなった。マレーシアの子供たちの英語が理解できなかつたり、自分の思いが英語で伝えられなかつたりして自分が情けなくなった。特に、最後のテスト中は自分の英語能力のなさが悔しかった。

バディ達をみていて、日本とは違う“思いやり”を知った。また、何事にも全力で楽しむ姿勢、常に私たちに笑って話しかけてくれる姿をみてそんな人になっていきたいと思った。

「研修先で得た経験で今後も続けていきたいこと」英語の勉強を中学生の内容から振り返りしていきたい。また、バディ達のように日本で外国人と関われるようなプログラムに参加し、日本の良さを伝えたり、英語能力を向上させたい。

「改善していきたいこと」英語の先生に言われた“睡眠時間は8時間がベスト”という教え通り長い睡眠時間をとらないようにしていきたい。何事も事前の準備を怠らずに落ち着いて生活していきたい。

「今後チャレンジしていきたいこと」

大学生活は後1年。悔いの残らないようにしたい。英語を少しでも話せるようになるために努力したい。これから就職活動をしなければならないが、“人のためになる仕事”を探したいと思う。さらに、海外に力を入れている企業に目を向けたいと思う。

「最後に」私は、鳥取大学の代表として、クロージングセレモニーでスピーチをさしてもらった。スピーチ文を考えるのに、3、4時間かかったが自分の納得いく文章はできなかった。スピーチのときも英語の発音、アクセントはダメダメだったと思う。しかし、バディの女の子が“私のスピーチを聞いて感動して泣いた”と言ってくれた。思いは気持ちで伝わるのだと感じ、とても嬉しかった。最後に私がFace book に載せた文章の抜粋を。

First, I want to say you guys thanks so much. I went to KLCC, Malacca and Batu Caves. I played basketball, ping-pong and bowling. I did catching the fish, cutting hair and speaking a speech. I learned about English, about Muslim and about your kindness. I appreciate Malaysian bodies, Tottori university students and my teachers. This experience is my treasure. Finally, everyone, see you again!!



高山 絹衣 工学部生物応用工学科 (2013 年度入学)

マレーシアではバディがついてくれ、学校だけでなく、寮でも生活のサポートしてくれたので毎日 good morning から始まり good night で終わる英語漬けの生活を送りました。マラヤ大学の授業では、先生の引き込まれるような問いかけと、バディが積極的に発言する姿を見て私自身も自然に発言するようになっていました。最初の方はバディや先生の英語が聞き取れず、聞き返すことが多かったが、日が経つうちに英語に慣れてきて、だいたい聞き取れるようになりました。しかし、バディに聞きたいこと、話したいことがたくさんあったが私の乏しい英語力では最後までなかなか言葉にできなかったのが残念です。このとき感じたもっと英語で会話したい、もっと英語を勉強したいという気持ちを忘れずに、今後、英語の勉強を頑張りたいと強く思いました。バディは親切で、上手く英語が話せなくてもジェスチャーを使いながら一生懸命伝えようとすると私の言いたいことを察してくれました。普段の会話でも私の発音が間違っているとすぐに訂正してくれたり、話し方のアドバイスをしてくれ、彼女との会話は私にとって良い英語の勉強になりました。そしてバディにマレーシアのことについて質問すると、私に英語だけでなくマレーシアの文化、食、習慣、宗教、様々なことを何でもわかりやすく教えてくれました。しかし、逆に日本のことについて聞かれると上手く教えられないことがあったので、自分がいかに日本について理解できていなかったか気づかされました。バディと一緒に学校に行き、一緒に食事をし、一緒に買い物をし、一緒にモスクやマラッカ、K L C C の観光をするなかで、バディは私にとって大切な存在となり、日本に帰国する際の空港では別れを惜しんだ涙が止まりませんでした。この研修で実際に海外に行って初めてわかったこと、行ってみなければわからなかったこと、日本で普通に大学に通っているだけでは得られない経験がたくさんできました。毎日が刺激的で充実していたマレーシアで過ごした 3 週間は私にとって忘れられない体験になりました。そして今後はこのプログラムで学んだことを活かしながら、大学生活を過ごし、もっと多くの人々と交流できるように一生懸命勉強していきたいです。



橘 頼之 工学部生物応用工学科 (2014 年度入学)

今回マレーシアに行って日本と異なるところをたくさん見ることができました。食事、宗教、語学などです。食事、宗教について感じたことを記載していきたいです。まず食事についてです。食事はお箸、フォーク、スプーン、手、を使っていました。やはり印象的であったのは手を使うということです。僕も経験させてもらいましたが正直とても抵抗がありました。しかし手にも使い方がありおもしろかったです。また、イスラムの人たちは左手を不浄の手としているため食事のときは全く使わないと思っていましたが意外とそんなことはなく驚きました。どの境界で左手を使ってよいのか、よくないのかわかりませんでした。また尋ねてみたいとおもいます。料理は辛かったです。そして飲み物は甘かったです。マレーシアの飲み物が甘いのは料理が辛いからだそうです。食べ物は初め辛かったですけどだんだん慣れていき中盤からおいしくいただけました。次に宗教についてです。僕が関わった人はイスラム教とヒンドゥー教でした。バディがイスラム教と一緒に生活できたため今まで知識でしか知らなかった宗教について自分の肌で感じる事が出来ました。例えばお祈りは毎日五回、同じ方向を向く。お祈りの前には体を綺麗にする。といったことはもちろんのこと、なぜこの宗教を信仰しているのか、いつから信仰しているのか、なぜ豚が不浄なのか、知らない間に食していないのか、など様々なことをバディに教えてもらえました。英語で応えてくれるので 100%理解できなかったがほんの少し理解できたと思います。現地の人に気軽に尋ねることができ、僕たちにわかるよう丁寧に教えてくれる機会がめったにないと思うのでよい経験ができました。知らないことを知ることに喜びを感じることができ学びのあるプログラムになりました。



谷田 真歩 地域学部地域文化学科 (2013年度入学)

今回の英語研修は、私にとっては初めての留学経験であると同時に、研修先のマレーシアではイスラム教が国教とされており、事前研修で宗教に関する知識をある程度は得たものの実際に宗教のある暮らしというものが全く想像できず、出発前は、大きな緊張と不安がありました。そしてマラヤ大学での英語研修が始まりました。本研修では、鳥取大学の学生一人につき現地の学生一人がつき、バディとして3週間の生活を共にしました。英語で会話をするという点において、バディとの共同生活が良い経験であったと思います。私は英語を話すことに自信がなかったのですが、下手な英語でもとにかく相手に伝える、質問するという意識していました。結果、相手は下手な英語でもほとんど理解してくれ、ふさわしい表現を教えてくれ、次につながるものを得ることができました。また彼らは、食事や授業など私達の生活に対していつも親切に対応してくれました。授業は、すべて英語で進められるので、最初は不安もありましたが、先生方はとても熱心で丁寧で、そしてユーモラスな授業をしてくださり、バディのサポートもあったので、毎日楽しく授業を受けることができました。休日は、マレーシアの地方へ行きホームステイをしたり、バディ達が、ナショナルモスクやクアラルンプールの名所各地に案内してくれたり、非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。また、日常に宗教のある生活は、とても貴重な経験であったと思います。彼らは宗教や信仰心について丁寧に説明してくれたり、私達の疑問に答えてくれたり、祈りの姿を見せてくれたりと、英語以外に、学びたいと思うような機会がたくさんありました。本プログラムに参加して、本当に良い出会いと経験ばかりの3週間でした。どの瞬間を切り取っても自分にとってかけがえのない時間であったと感じます。はじめての留学経験でありましたが、英語を話せるようになりたいという気持ちが更になりました。マレーシアで学んだことを忘れず勉強し、今後も自分の目標に向かっていきたいと思えます。



玉櫛 奈緒子 地域学部地域政策学科 (2014 年度入学)

私が研修で感じた自分自身の変化は英語の楽しさに気づけたことが一番大きかったと考える。そして、マレーシアと日本の違いを受け入れられたことである。

日本で生活していたら関わる機会はないであろうと考える宗教について考え、食生活の違い、一番大きかったのは人々が本当に優しく、寛大な心を持ち、いつも私たちによくしてくれたことである。バディと寝食を共にする中で、バディはイスラム教で毎日欠かさず決まった時間にお祈りをしていた。こんなに近くでイスラム教の人と関わる機会がなかったし、宗教的に豚も食べないし、イスラム教を間近に感じる機会はないと感じ、宗教を持つ国の人を自分なりに最大限理解できるいい機会になった。

食生活は宗教と関係している面、肉は鶏肉を食べることが多く、何より辛い食事が多くて、辛い食べ物が苦手な私には食べられないものが多々あった。しかし、バディが辛くない食べ物を用意してくれ、自分の要望に合わせてくれた。そして何より、バディは常に自分に気を使ってくれ、体調を壊した時も親身に世話をしてくれたり、授業で分からない時も丁寧に教えてくれたりと、本当に頼れる存在であった。

バディが支えてくれ、授業も日本とは違い、自分から参加していく授業で、それが新鮮でとても楽しく英語を学ぶことができた。クラスの雰囲気もとてもよく、静かな空間ではなく、みんなで楽しみながら学べたことが私にとって本当に初めてのことで、自分が参加することによって、間違いも多くしたが、間違いを恐れないことが大切だと感じることができ、私は自信を持っていないと感じる場面が多く、自分に自信がないと何も始まらないと思い、何事にも自信を持つことの大切さを知った。

世界に出て、いかに自分が英語を聞くことが出来ず、話すことが出来ないかを知ることが出来た。英語がもっと話せたら、もっと話が広がるのと思うようなことがあったので、私が続けていきたいことは、英語を1日5分でもいいから英語に触れる毎日を送ることである。単語でも音楽でも映画でもなんでも、日ごとに欠かさず、何か英語に触れるという機会を大切に、実践に移して自分の英語力を向上させたい。

今後チャレンジしていきたいこととしては、この研修を経験してさらに長期留学をしたいと思えたことである。海外の学生は日本の学生より輝いて見え、私もその人たちと一緒に勉強したいという思いが膨らみ、長期留学が出来るように、語学面だけでなく、色んな事に挑戦していきたいと思えた。

この3週間はかけがえのない思い出になりました。ありがとうございました。



堤亜 矢香 工学部応用数理工学科 (2012 年度入学)

私は、マレーシアでの3週間の英語研修でたくさんのものを得ることができたと感じています。

まず、英語力です。マラヤ大学のバディとの会話・英語の授業は全て英語です。最初は、英語を聞いて英語で話さなければならない環境に戸惑い、英語を聞きとることや伝えたいことを伝えることができませんでした。しかし、バディとは寮の部屋も同じで、英語を1日中使ったことで徐々に慣れていき、3週間でリスニングの力がついたことを実感しました。英語の授業は2時間と長かったですが、マレーシアの先生の授業はおもしろく、楽しんで英語を学びました。プレゼンやディスカッションもあり、英語を話す機会は多かったです。

次にマレーシアの文化を知ることができました。イスラム教が多く、食事やトイレなど日本の文化と違うところがたくさんありました。マレーシアの伝統の衣装を着たり、楽器を練習して最後に発表したりもしました。このプログラムに参加したからこそ体験できることだったので貴重な経験でした。マレーシアの文化に直接触れることができました。

日本の学生1人に対してマラヤ大学の学生が1人バディとしてついてくれたことはとても心強かったです。みんなフレンドリーで優しくかったです。英語の授業中、隣でサポートしてくれるだけでなく、生活の中でも道を歩くときや、食事など細かいところまで助けてくれました。また、彼らの英語力の高さには驚きました。自分の英語力がもっと高ければたくさん会話できて楽しめたのではないかと思うと、これから英語をもっと勉強したくなりました。

マレーシアでの3週間は私にとってとても短いものでした。また、英語を十分に勉強するにも時間はもっと必要です。今後はさらに長い期間海外に行って学び英語力をあげて、たくさんの人とコミュニケーションをとれるようになりたいと思うようになりました。マレーシアの英語研修は毎日とても楽しく参加して本当によかったと思います。



富田 真央 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学)

参加前は、海外の環境や人は実感のないものでしたが、今回の研修で、3 週間という短い時間の中でかなり濃い現地のバディとの関わりと経験ができ、今まで遠い存在だった海外がよい意味で特別ではなくなりました。

最初の三日ぐらいは本当に慣れないことばかりで1日がとても長く感じられ、バディたちも優しいのですが英語で普段通りに会話することもできないので、「日本人と話してる方が楽しいな。どうしよう、もうすでに帰りたい」という気持ちで3週間もあるのに耐えられるのかと思っていました。でも、英語の授業があって昼からはなにかするというこの生活に慣れてくると、一気に1日が短く感じるようになり、ある程度気持ちに余裕もできてきて、バディたちとも外国の人としてではなく、言葉が通じなくてもなんとなく意思疎通ができることにも気づいてきました。1 週目の土日ではホームステイがありいつもとは違う環境で野外でのアクティビティで夜ご飯までみんな一緒だったため、ローカルバディとも参加している日本人同士どうしても今までより仲良くなれた気がしました。2 週目は本当にこの研修が楽しくなってきた時で、周りも同じように感じている人が多くみんなでもう日本帰りたくないと話したり、最初のもう日本に帰りたいて思っていた頃は本当に想像がつかないくらい楽しくすぐに過ぎていきました。英語の授業にも慣れ、参加者どうしの仲も深まり、ある程度近くのスーパーぐらいなら日本人だけでもいけるくらいになってきて、授業の時にバディがいろいろ教えてくれたり食事の時に話してくれたりするおかげで、バディたちのこともひとくりに外国人ではなく、ひとりひとり個性があってそれが日本人とおなじだなと思いはじめたのもこの頃でした。そうすると、もっとこの人と話してみたいという思いも強くなり、自分からどんどん話すという感じではありませんでした。前よりできるだけバディたちの近くで一緒にいたいと思うようになりました。マラッカ観光は本当に日本人だけの旅行と変わらないような楽しい一日でした。3 週目は本当にすぐに過ぎ、最後の日までバディたちに連れてもらいいろいろなところに行っていました。

いま日本に帰ってきて、今回出会ったマレーシアのバディたちとは連絡を取り続けたいと考えています。もっと英語を話せるようになって今度はこっちが日本を案内したいと思います。



宮本 菜摘 地域学部地域教育学科 (2013年度入学)

今回の派遣プログラムに参加して、一番感じたのは、自分の世界が広がったということです。自分の足で世界に踏み出し、自分の目で世界を見たという経験は、私にとって大きな自信につながりました。実際に世界に出てみると、知らないことだらけで毎日が新たな発見にあふれていました。マレーシアは、多民族国家で、いろいろな人種、宗教の人々が共存している国であるため、日本とは違った文化や習慣を学ぶことができました。トイレの使い方や食事の仕方、お祈りなどはじめはどうしたら良いのか分からず戸惑うこともあったけれど、日本では経験できない貴重な体験になりました。宗教についてはイスラム教やヒンドゥー教など聞いたことはあっても、どのような宗教なのか知らないことが多かったけれど、実際に、モスクや寺院に行ったり、お祈りをしている姿を近くで見たりすることによって理解が深まりました。また、このプログラムにおいてとても大きかったのがマラヤ大学学生のバディの存在でした。3週間生活を共にし、いろいろなところで親切に優しくサポートしてくれたバディは、私にとって大切な存在となりました。英語の授業も一緒に受け、分からないところを教えてもらったり、一緒に考えたりととても心強かったです。授業以外でも、ご飯を食べたり、買い物に行ったり、マレーシアを案内してもらったりと、みんなでたくさんの思い出を作ることができました。英語の授業では、先生が、私たちがきちんと理解できるまで説明してくださったり、分からない単語も辞書を使わずに英語で説明してくださったりしたためとても中身の濃いものでした。今回のプログラムでは、語学の習得はもちろん、マレーシアの文化や伝統、風習に触れることができました。そして、それらに触れる楽しさを改めて感じることができました。これから、マレーシアで経験したことを活かして、さらに英語の学習を続けていくとともに、異文化に触れる機会を増やし、さらに自分の世界を広げていきたいと思います。



横山 耀 医学部保健学科 (2013 年度入学)

春休みの約3週間、マレーシアマラヤ大学の英語研修に参加しました。この研修に参加する前は、海外に行くことに対する興味はあったものの、海外に対する不安があったりチャンスがなかったりして、実際に海外に行くことはありませんでした。そして、1年生の時の春休みが充実したものではなく、今回の春休みは充実したものにしたいと思いました。また、中学校から習ってきた英語を日常の中で使ってみたいと思い、この研修に参加しました。

この研修では、英語の授業とアクティビティがありました。アクティビティの時間には、伝統的なダンスやミュージックを体験したり、モスクやミュージアムなどクアラルンプールを観光したりして、退屈することなく充実した日々を送ることができました。

英語の授業では、先生がすべて英語で話すので、なかなか聞き取れず理解ができなかったこともありました。しかし、授業の中でロールプレイを取り入れて分かりやすく説明してくれ何度も内容を理解しているか確認してくれました。日本では受けたことのないような英語の授業で毎回の授業が刺激的でした。また、授業で理解できなかったところをバディがさらに分かりやすい英単語や画像を用いて説明してくれたり、授業の雰囲気盛り上げてくれたりするなど、バディなしでは英語の授業を楽しむことはできなかったと思えるほどバディの存在は大きいものでした。

この研修で一番思い出に残っていることは、誕生日をこの研修に参加したみんなやマレーシアのバディ、日本の他大学から参加している学生に祝ってもらえたことです。みんなに“Happy Birthday”、“Happy Boy”などとたくさん言われてうれしかったです。そして、夜にはパーティーを開いてくれてとても楽しいうれしい一日となりました。マレーシアに来なければ、20歳の誕生日をここまで思い出に残る日にすることはできなかったと思うので参加してよかったです。研修に参加したみんな、マレーシアのバディにとっても感謝しています。ありがとうございました。

最後に、この研修を通して英語はコミュニケーションのツールであって、英語を勉強することを目的とするのではなくて使うことを目的として勉強することで、自分の伝えたいことがもっと伝えられるようになるのではと思いました。また、語学だけではなくて専門科目についても留学して勉強してみたいと思うようになりました。チャンスがあれば今後留学にもチャレンジしてみたいです。



## 台湾銘傳大学英语研修プログラム

国・地域：台湾

研修機関：銘傳大学

参加者数：20 名

期間：2014 年 2 月 25 日（水）～3 月 20 日（金）

内容：英・米・カナダで学んだ 8 名の専門講師による英語 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の質の高い集中トレーニングを英語で受けることができます。プレースメントテストによって 2 クラスに分かれ、きめ細かな指導を受けることが可能です。銘傳大学英语専攻の学生が授業 TA として、日本語専攻の学生が生活 TA としてプログラムに参加し、授業や日々のサポートを得られます。更に、総統府、故宮博物館等を訪れる Cultural Tour では、台湾の歴史・文化に触れることができます。



写真：TA と一緒に参加した Cultural Tour での記念写真

赤嶺 菜緒 地域学部地域文化学科 (2014 年度入学)

今回銘傳大学英语研修では、日本では味わえない数多くのことを味わうことが出来ました。英語の授業は全て英語で行われ、置いていかれないようにすることで精いっぱいでした。しかし、3 週間英語漬けの日々を過ごして、だんだん聞き取れるようになり、英語で話すことに対する抵抗が少なくなりました。学生 10 人に対して先生が 1 人の少人数授業だったというのと、先生方がフレンドリーだったため、気軽に質問や発言が出来ました。日本の授業は大人数で先生との距離が遠く、発言などは絶対できませんでしたから大きな違いです。授業では、主体的に参加していかないと全くついていけなくなるので、主体的に参加することが大切だと感じました。

また 3 週間の研修で、自分の語学力を磨くべきだと感じました。それは、台湾で出会った人々とこれからも交流を続けていきたいと考えたからです。英語学科の学生は、何の抵抗もなく英語を話し、自分たちもネイティブでないにも関わらず、私の下手な英語を正しく解釈してくれたり、発音も指導してくれたりしました。最初の方は彼らの話す英語が早すぎて、話すのに抵抗があったけれど、慣れてくると、英語で話しかけるのも話すのも普通のこととなりました。日本語学科の学生は、日本語がとても上手で、私たちとほとんど不自由なく会話が出来ました。私はこの銘傳大学の学生のレベルの高さに驚きました。今回は彼らの優しさに甘え、平日だけでなく、休日にもたくさん観光に連れて行ってもらいました。台湾は中国語圏であるので、大学から一歩出ると英語はまったく通じなく、中国語が出来ない私たちは、注文すらも出来ませんでした。銘傳大学の学生が、そんな私たちを嫌そうな顔をせず助けてくれました。

私は、今回の研修で出会ったみんなともっとコミュニケーションをとることが出来るように、英語や中国語を学んでいきたいです。英語は今回の研修で鍛えることが出来ましたが、まだまだだということを感じさせられました。中国語は、今回の研修で生の中国語に触れて楽しそうと感じ、また次に台湾を訪れたときに、ある程度自分のことは自分で出来るようになりたいと考えたからです。言語の幅を広げて、自分の感情を豊かに表現することが出来たら、さらに世界中に友人が出来る可能性が広がると思いました。今後も勉強に励みたいと思います。



池田 季樹 工学部社会開発システム工学科 (2013 年度入学)

約 3 週間の銘傳大学英语研修を終えました。不安と期待が入り混じる中で始まりましたが、今はこのプログラムに参加できて本当に良かったと思います。銘傳大学の学生にも非常にお世話になり、充実した楽しい日々を過ごすことができました。周りの人たちへの感謝の気持ちでいっぱいです。ここでは、3 週間の研修の内容、得たもの、これからのことの 3 つに分けて話していきます。

まず、どのような 3 週間だったのか話していきたいと思います。月曜から木曜は朝から夕方まで授業、その後 TA time でした。授業は素敵な先生方のユニークな授業のおかげで、毎日楽しく受けることができました。90 分授業に慣れていることもあったためか、50 分授業はあっという間でした。そして授業の後の TA time は授業や宿題の分からないところを英語 TA の方に教えてもらうことのできる時間なのですが、毎日これがとても楽しみでした。TA と話してばかりで宿題が後回しに、ということもしばしばありましたが、英語 TA との距離が縮まりました。金曜は観光名所に行くことが多く、休日はフリーでした。僕たちの班は朝から晩まで TA と出かけていたので、クタクタな状態で夜遅くに宿題をして寝るというハードスケジュールでした。しかし、その分たくさんの思い出を作ることができたので良かったです。

僕が今回の研修で得たものの中で一番大きかったものは新しい友達です。英語で話すことに少し慣れたり、周りを見て行動するといったことも得られましたが、それ以上に友達を得たことは大きな財産です。友達は様々な場面で心の支えになり、時には大きな困難を乗り越える助けになります。

これからについてですが、引き続き英語の勉強をしていきたいと思います。今回の研修で、自分の英語はまだまだだということを改めて感じました。単語やイディオム不足で先生の言葉を上手く聞き取れないという場面もあり、研修後は計画的に勉強していこうと思います。また中国語にも興味が出始めたので、発音など難しいですが英語・韓国語と平行して少しずつ勉強していきたいと思います。



石原 優希 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学)

こんなに充実した長期休暇は初めてだと何回も思うほどプログラム内容が充実していてとても良い研修でした。

授業は、全て英語で行われたので最初のうちは聞き取ることさえ大変で、内容を理解することが本当に大変でした。しかし、わからないところがあれば丁寧に教えてくれるので、次第に先生の言っていることが聞き取れるようになっていったのと同時に内容も理解できるようになっていき、徐々に適応していけているという実感が生まれました。その授業内容も日本ではやったことのないようなものが多く、ディベートや自分の意見を伝える能力が求められる授業が多かったように感じました。特にライティングの授業が私にとって一番印象的で、こんなやり方が存在するのかなと思ったのと同時に、新しい考え方を提案された感じでとても刺激的でした。また、今回の研修中に何回も注意を受けたのは、英語の発音です。発音が少しでも悪いと全く伝わらないことに気づけたことが良かったと前向きにとらえて、今後そこを重点的に意識しながら勉強をしていきたいと思えます。

また、授業以外でも日本語が通じないので英語や中国語を使っての会話がメインでした。英語はもちろんでしたが、1年間しか勉強していなかった中国語を思い出す良い機会になりました。さらに今後中国語の勉強を再開して会話が成立するくらいになりたいと思えし、外国語を用いての会話の楽しさを改めて感じる事ができたので、新たな言語を今後勉強しようとする良い機会になりました。

また、銘傳大学英語研修は英語の授業だけではなく、週末には台湾の文化を体験できるアクティビティが用意されていて、九份や故宮博物院に行き台湾を感じてきました。プログラムが指定したアクティビティがない休日には、日本語学科や英語学科のTAさんが行きたいところに連れて行ってってくれるので安心して観光できました。台湾は山、海、ショッピング、寺などいろんな種類の観光地があり、時間が足りないくらいでした。

今回の研修に参加して外面はそんなに変わっていないと思いますが、研修を通して自分の力不足や将来的には数種類の言語で会話してみたいから語学の勉強を継続するといった語学に対する意識が、参加する前と比べて良い意味で大きく変化したと思えます。



今仁 優希 工学部知能情報工学科 (2014 年度入学)

海外に一度行ってみたい。私が大学の語学研修に参加しようと思った一番の理由はそれだった。海外渡航を経験したことがある友達は随分いた。家族旅行や修学旅行などで、大学生くらいの年齢になれば多くの人が一度くらいは海外渡航をした経験があるものだ。日本は安全で、平和で、素晴らしい国だ。それは間違いないと研修を終えた今も確かに思っている。このような日本から、わざわざ海外に出ていく理由が今までひとつもなかった。私は、日本という国が大好きで、世界で一番の国だと思っていた。しかし、その根拠となる情報源は全て日本国内で、日本語で書かれているものから得ていた。私はそういう自分の考えが少し嫌だった。一度も海外に行ったことがないのに、日本が一番などというのは論理的に成立していないような気がして、いつか海外に行き、そして改めて日本という国の良さを再確認したい。またそれによって、向上すべき点も見つかるのではないかと考えていた。そういう気持ちから、海外に行きたいと考え、語学研修に参加した。

初めて行った海外は、やはり衝撃的だった。今までの自分の世界の狭さを感じさせられた。台湾人と日本人、外見だけで見分けるのは非常に難しい。しかし、やはり言葉が全く違う。かえって見た目はほぼ同じなのにしゃべる言葉が全く違うということが、そこが外国であるという事実を突きつける場合もある。買い物をする時、つい店員も日本語が通じるのでないかなどと考えてしまう。研修先の大学生も、これだけ見た目は変わらないのだから、少くから日本語がわかるのではないかと研修初めの頃錯覚したものである。しかし現実やはりそうではなかった。台湾のコンビニは日本の企業が進出していて、店構えも商品も似ているのでなおさらその錯覚を助長させる。「袋をください」とただそれだけ伝えるのが簡単でない。そのような苦勞が生じるということ、現地に行って初めて気づかされた。外見は変わらなくても、言葉は当然通じない。この至極当然の事実を、外国に行きやっと知ったのである。

今、研修を終えて考えるのは、外国語学習の能力というのは、単位やテストの結果などとはあまり関係のないものだという事だ。私は今まで、ほとんど試験や単位のために語学をしてきた。しかし、此度の研修を経験して、もっと実用的な語学力を意識して学習を進めていきたいと思うようになった。一年間中国語を習っていても、「袋をください」の一言すら言えなかったのだから。そしてテストや資格試験は、その能力の向上を測る一指標として活用していこうと思う。それが目的ではないのである。今回の体験は、異文化理解や外国語学習のモチベーションに非常に強く働きかけるよいものとなった。



小川 智之 工学部社会開発システム工学科 (2013 年度入学)

こんにちは。工学部社会開発システム工学科 2 年の小川智之です。この度は台湾銘傳大学英語研修生の一員として参加させて頂き、本当にありがとうございました。

この研修は私にとって、とても過酷なものになりました。なぜなら、TOEIC600 点台でちょうど良いと言われている授業を、400 点台前半の私が受けさせていただいた為です。授業レベルと自分の英語レベルとの差、周りの日本人学生と自分とのレベルの差など、覚悟はしておりましたがそれを感じない日はありませんでした。

そのような環境の中で、いかにして授業についていくか。自分の出した答えは、「授業が分からなくなったら、後回しにせずその場で聞く」と、「友達ではなく、出来るだけ先生に（もちろん英語で）聞く」ことでした。私は授業が聞き取れなかったときに、周りの英語の出来る人に手取り足取り通訳してもらうのが悔しくてたまらず、またそれを繰り返しては自分の成長に繋がらないと感じました。そこで、分からなかったらまずは自分の英語で先生に尋ね、それでも分からない時だけ（授業の進捗のこともあるので）友達に聞く、というスタンスで頑張ることと決めました。最初の方はぜんぜん理解できなかった授業も、自分の力で聞きに行くことで最後にはかなり理解できるようになりました。私がこのスタンスで頑張りが続けたことができたのは、厳しくも熱心に、そして丁寧に教えて下さった先生方と、理解あるクラスメートのお陰だと感じています。

また、英語 TA さんに積極的に話しに行くということも意識しました。当然のことながら、英語を知っていても話が出来なければ、意思疎通や仕事も出来ないので、運用能力も磨こうと考えたからです。英語 TA さんは日本語 TA さんと同じく積極的に私達と接してくれ、そのお陰もあり英語を使う機会にはとても恵まれました。その結果、以前はとてもストレスに感じていた英語での会話が、とても気軽にできるようになりました。文法ミスをあまり気にせず、間違えることを恐れない。これを実践するだけで、英語力がまだまだ未熟な私でも英語による会話が出来ることがわかりました。

私はこの研修を通してたくさんのスキルが身につきましたが、それを遥かに超える量の課題も見つかりました。この研修で手に入れたスキルと課題、両方を大切に、これからも引き続き英語を伸ばせるよう勉強に励みたいと思います。



小野 真弘 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

今回銘傳大学英語研修に参加してみて、色々なことに気付かされ刺激を受けました。異国の地で現地の学生と英語で会話していく内に、初めは黙っていた僕も最後の方には積極的に話すことが出来るようになっていました。この研修を通して以前よりも人間関係において積極的になった気がします。現地の学生との関わり中で、自分自身について新たに気づかされることも数多くありました。

英語学科の学生たちは英語を流暢に話すことが出来、自分の英語力と比較した時に「このままではいけない！」という気持ちさせられました。自分の伝えたいことがうまく伝えられず、もっと英語が話せるようになりたいとも思いました。

研修に参加したことによって、英語の学習に対するモチベーションが高まりました。研修では英語学科の教授たちによる質の高い授業を受けることができました。この授業では英語の勉強の仕方についても沢山教えていただいたので、今後の学習に役立てて行こうと思います。

日本語学科の TA の中に茶道部に所属している人がいて、茶道部に見学に行く機会がありました。見学に行ってみて、日本人の自分の方が茶道について無知であることにショックを受けました。自分の国の文化についてある程度理解しているつもりでも、知らないことが沢山あるものだと思います。自分の国の文化について理解していることは、グローバル人材として大切な要素であると思います。なので、また海外に行くことがあれば、その時は自分の国の文化について話すことができるようになっていたと思います。

この研修で英語力が飛躍的に上がったわけではありませんが、得たものは沢山あったと思います。そしてなにより、銘傳大学の学生たちと仲良くなって、今でも連絡を取り合っていることを嬉しく思います。この研修に参加してみて、もっと期間の長いプログラムや他の国にも行ってみたいと以前よりも強く思うようになりました。この研修で得たことが無駄にならないように、英語の勉強を含め全てのことに精進していこうと思います。



梶原 礼成 地域学部地域文化学科 (2014 年度入学)

最初、台湾に行くことを決めたときは、生活面でも勉強面でも不安なことの方が多かったのですが、台湾で会う人は本当に親切な人たちばかりで、本当に有意義な3週間を過ごすことができました。銘傳大学の学生さんたちはとても優しくしてくれるとは聞いていましたが、「まさかここまでしてくれるとは！」というほど至れり尽くせりで、TAさんたちだけでなく先生方(特にEvaとTerri)も本当に良くしてくれて、先生方にもお土産を持ってくるべきだったなと思いました。

周りの人からは、「英語研修なのに台湾??」と言われることもありましたが、台湾で研修を受けることができ良かったと、本当に思います。私たちと同じ学生が第二言語である英語や日本語を母国語のように使いこなしているのを実際に目にするので、とても刺激を受け、自分ももっと英語力を伸ばしていきたいと思いました。このプログラム用に授業内容は合わされているとはいえ、普段自分が受けている英語の授業の何倍も身になる(英語でディベートやプレゼンなど)、レベルの高い授業を世界の大学生は受けているのだということを気づかされました。そのことで、大学の授業だけで満足せずに、自学自習の必要性を感じました。

英語の勉強だけでなく九份に行ったり、台湾の歴史文化を学んだりできたのも本当に良い経験でした。1か月未満の研修でしたが、自分以外の一緒に来ていた日本人の学生も、研修前と研修後では、すごく積極的になっていたり、グループ行動がスムーズにできていたり、この研修で変わったなと思いました。私も、自分では具体的に何が変わったのかはわかりませんが、確実に成長できたと思います。

TAさんと過ごす時間と、課題をする時間の両立が上手くできず、日々課題に追われていましたが、その分、英語力は伸びたと感じます。この研修がすごく良かったので、今後も、留学や海外研修があれば積極的に参加していきたいと考えます。英語TAさんと日本語TAさんがもめるということもありましたが、私たちとそれほど一緒にいたいと思ってくれているからこそだと思ったり、最後の日は、本当に寂しくて悲しくて涙のお別れになりました。

日本からの引率の先生にこれからお願いしたいことは、ホテルで夜遅くまで騒ぎ過ぎている人たちに注意してもらいたいということと、帰国したときに、台湾ドルから日本円に両替してもらうのをみんなで一斉にするか、両替できるところに案内してもらいたかったです。



坂田 求 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学)

今年の春、私は台湾の銘傳大学に英語研修に行きました。銘傳大学では、ライティング、リーディングやリスニングといった基礎的な授業に加えて、様々な分野の議題についてディスカッションを行ったり、英語でのプレゼンテーションを行ったり、ドラマという英語での演劇を練習する授業といった日本ではなかなか体験することのできない多様な授業が用意されており、これらの授業は試験に必要な英語力はもちろんのこと、それ以外に生きて生活するために必要な英語での自己表現力を高めてくれたと感じています。特にディスカッションの授業では、日本語で討論したいくらい深い内容の議題まであり、自らの意見を述べたり、他人の意見を聞いたり、それぞれが述べた意見をまとめたりするため、はじめて行ったときは難しくなかなかうまく自分の意見や考えを伝えることができなかったのですが、回数を重ねていくうちによりクリアに相手に伝えることができるようになり、そういった体験から自身の英語力の向上を直接的に感じる事ができたと思います。また、本研修は語学力の向上だけではなく、私を積極的な人間として成長させてくれました。銘傳大学の授業ではよく生徒の意見を求める場面がありました。これまでに日本でもこういった場面はあったのですが、こういった際に私は間違いを恥ずかしいものと考え恐れ、発言することを避けていました。しかしながら、銘傳大学の授業では少人数制であるため、先生が生徒一人ひとりとしつかりと向き合ってくださいっていて、発言できるまで待っていてくれたり、言いたいことを説明することが難しく困っていたらいろいろと問いかけてくれて、そこから答えを引き出してくれたりと僕の発言に対する恐怖心などを取り払ってくれました。そのおかげもあって集団の中で発言することへの抵抗が無くなり、授業以外のところにおいても以前よりも積極的に物事に参加できるように次第と成長できました。

以上のように、私は本研修を通して英語力の向上だけではなく人としても成長することができました。今後は、これらの体験を生かして授業などに積極的に参加したり、留学生を含めた外国から来ている人に自分から話しかけたいと考えています。また、本研修を一つの終わりとするのではなく、この研修をスタートとして他の研修プログラムや、留学にどんどんチャレンジしていこうと思います。



清水 万由 工学部生物応用工学科 (2013 年度入学)

今回、台湾銘傳大学の英語研修に参加させてもらって感じた自身の変化は、皆の前で発表する恥ずかしさが軽減されたことです。今までは、間違えたら恥ずかしいと思っていましたが、先生方や英語 TA さんがすごく優しくフォローしてくださったので思い切って手を挙げて発表することができました。今までは英語の授業がそんなに好きじゃない退屈な授業に感じていましたが、今回の授業は新鮮ですごく楽しかったです。特に印象的だったのは、Reading の授業で初めて Summary の書き方を教えてもらったことと Writing の授業です。Reading の授業でどのように Summary を書けばよいかを教えてもらい、さらには Writing の授業でどのように文章を構成させればよいかを丁寧に教えてもらいました。なので、今後も使っていきたいと思います。また、この研修でたくさんの人にお世話になりました。毎回授業のフォローをしてくれる英語 TA さん、生活のお世話をしてくれる日本語 TA さん、英語の先生には本当にお世話になりました。英語 TA さんには宿題を覚えてもらっただけでなく、授業以外でも英語でたくさん会話して Speaking の練習になりました。しかし英語で会話していて、自分が伝えたいことがきちんと伝わらないもどかしさを常々感じました。英語 TA さんは英語が本当に上手で私も頑張らないと、という刺激をもらいました。なので、これからも英語を頑張って勉強して海外に行っても困らないくらいにしたいと思います。

また、日本語 TA さんは、朝ごはんから夜ご飯さらに週末の旅行まで連れて行ってくださいました。中国語が分からない私たちに丁寧に説明してくれて本当に助かりました。彼らは本当に熱心に日本語を勉強していて、日本のことを私たちより知っていることもあって驚きました。3 週間中国語圏で生活して、中国語を勉強してみたいと思いました。中国語を勉強して TA さん達と会話してみたいです。

この研修の最後に、プレゼンテーションという大きな課題がありました。プレゼンテーションを作るときに TA さんに質問したり、練習に付き合ってもらったりしました。本番は、TA さんも見に来てくれ、研修で習ってきた全てのことを出し切ってプレゼンすることができました。本当に実りのある 3 週間でした。銘傳大学の皆さん本当にありがとうございました。



下田 有彦 医学部生命科学科 (2014 年度入学)

私は銘傳大学英語研修プログラムに参加させていただいた。このプログラムを選んだ理由には、もちろん費用が安価であったということもあるが、前評判が良かったということが大きい。そして、研修に参加して、前評判通りの内容だと感じ大変満足している。さて、以下においてこの研修に参加して感じた自分自身の変化について書かせていただこうと思う。

この研修に参加する前、自分で言うのもなんだが私はかなり英語を学んでおり、そのせいか、正直英語というものに半ば飽きを感じていた。いわば、マンネリ状態である。そして、この研修に参加しても、あまり自分の英語には変化がないだろうとさえ思っていた。しかしながら、銘傳大学で待ち受けていた英語の講義、及び環境は驚きの連続であり、私の英語に対する考え方、及び英語に対する姿勢に大きな影響をもたらした。まずは、講義について書かせていただく。英語の講義はどの先生が担当されている講義も個性的で魅力的、生徒を飽きさせないものであった。まず、クラス少人数制 (10 人) であり、机は円状に並べてある。日本の授業では見ることのない状況である。それだけでも驚きであったが、授業も型に囚われない個性的な授業ばかり。例えば、ライティングでは消しゴムの使用が禁止であった。消しゴムを使うと怒られる。なんでも、無意識下から出てきた発想を消さないためらしい。そして、少し書き方を教わった後はただひたすら書く書く書くの書きっぱなし。実にユニークかつ有益な授業であった。これらの授業は私の英語に対する考え方を楽しくないものから奇想天外で魅力的なものに変えた。大変感謝している。

次に環境について書かせていただく。台湾での会話の全てが英語で行われるということはもちろんなかったのだが、英語の TA の英語のレベルは極めて高く、驚かされた。英語の発音もネイティブと大差ないもので、日常会話もスラスラと話していた。そんな TA さんたちと多くの時間を過ごすので、研修期間中は自分の英語力のなさを痛感させられるとともに、英語学習に対するモチベーションが大変上がった。

上記のように、この銘傳大学英語研修プログラムに参加することで私は英語が魅力的であると再認識させられ、かつ、英語に対するモチベーションが大変上がった。今回この研修に参加できて本当に良かったと思っている。



谷口 順平 医学部医学科 (2011 年度入学)

本プログラムを通じて英語でのコミュニケーションに対する抵抗が弱くなりました。参加する前までは英語に対するコンプレックスがありました。しかし参加してみて、大切な事は言葉と同時に伝えたい気持ちである事を非常に強く感じ、とても勉強になりました。自分の英語がいかにか伝わらないかを再確認出来たのも、今後の勉強の励みになると感じています。

台湾での生活はとても楽しく、今回参加してとても良かったです。台湾の方々は本当に親日的で私達留学生に本当に良くして下さいました。週末は一緒に旅行に行き、また平日は一緒にご飯を食べてくれて、見知らぬ土地だったので大変心強く感じました。彼らには本当に感謝しています。もし、台湾の学生が留学してきたら私も彼らに優しく接したいと考えています。

授業では読み・書き・聞く、満遍なく学ぶ事が出来ました。特に Writing に関しては自分の無意識の部分を引き出す技術を教えて頂き、大変参考になりました。Listening に関しては Shadowing の重要性を教えて頂いたのと同時に、自習するのに有用なたくさんのサイトを教えていただいたので、日本に帰ってからそれらを利用して Listening のスキルを上げていきたいと考えています。Presentation の授業では、英語でプレゼンする際の重要な点を教えて頂いたので、今後の発表などにも役立つと感じています。Cross-cultural の授業では市場や餃子パーティーなど様々な経験をさせて頂き、とても楽しかったです。ただ、自分は Oral communication の向上を目的に本プログラムに参加したので、全体としてもう少し Oral communication の授業が多かったら良かったなと思いました。授業全体としては、銘傳の先生方はとても優しく、質問したら丁寧に教えて下さったので、問題なく授業に取り組むことが出来ました。

将来的に海外に留学し、さらに学びを深めたいと考えているので、今回の研修で得た事や感じた事を糧にして自分の専門領域の英語と英会話を向上させていきたいと考えています。

最後になりましたが、今回の研修に携わった鳥取大学、銘傳大学双方の先生に感謝しています。参加して本当に良かったと感じています。



田村 丞 工学部機械工学科 (2013年度入学)

私が一番変化したと感じる部分は英語を話すことに対して自信がついたことである。以前は英語を話すことにとっても不安があった。相手にうまく伝わらなかつたらどうしよう、文法を間違えているかも、などと考えてしまっていたからである。しかし、研修を終えた今ではそのような苦手意識はなくなったのである。

初めは授業で話すことが嫌で、積極的に発言することができなかつた。なぜなら先生に当てられてもすぐに答えることができないので、先生や周りの学生を待たせてしまうと不安に思っていたからである。しかし先生は私が答えるのを待ってくれるのである。しかも私の意見をしっかりと聞きたいという姿勢で待ってくれるのである。自分の思っていることをうまく言うことができなくてもフォローをしてくれ、私の言いたいことを正確に言えるように助けてくれるのである。そのことに気づいてからは英語を話すことに対しての不安や自信のなさがなくなり、とても気が楽になった。

英語 TA との会話でも克服することができたと感じている。初めは間違えることを不安に思い、文法を確認してからでないと話することができなかつたのだが、話していくうちに多少文法を間違えていても伝わるのがわかった。また、思っていることをうまく言えないときにはジェスチャーで伝えることができることもわかった。初めは不安や自信のなさから話すことを敬遠していたのだが、今ではうまく伝えることができなくても違う言い方、違う方法で伝えられればよいと考えることができ、積極的に話すことができるようになった。しかし伝わるまで何度も言えるようになった一方で、一回で自分の思ったことを正確に伝えられるようになりたいとも思うようになった。よって、日本に帰ってからもさらに英語を勉強したいと思うようになった。

この研修では様々な部分で自分の意識や考え方を変えることができた。また、さらにこのような経験をしたとも思うようになった。だから今後も前向きに様々なことに挑戦して、たくさんの経験をしたと思う。



中村 裕香 農学部生物資源環境科 (2014 年度入学)

私は台湾への研修に参加して、本当に良かったと思います。英語の勉強という面でも、国際交流という面でも、本当に充実した3週間でした。まず英語に関する事で最も変わったと思うことは、英語で会話をする事への抵抗が減ったということです。台湾に来たばかりの頃は、台湾の英語学科の学生に英語で話しかけられた時に、自分の英語に自信がなく、とっさに上手く話すことができませんでした。しかし毎日英語で話したり、授業を受けたりするうちに、英語を間違える事への恐怖が薄れ、積極的に英語を使うことができるようになりました。台湾の英語学科の学生はとても流暢に英語を話すので、一緒に会話をする事でもって英語の勉強になります。また、宿題の手伝いなどとても積極的に関わってくれるので、すぐに仲良くなることができました。台湾の学生と関わるうちに、間違いを起こすことや積極的に英語を使うことは、英語の学習に必要な大切なことだとよくわかりました。日本でも忘れずに、英語の授業などでも積極的な態度を続けて行きたいと思います。

また、研修の授業では毎日英語を聞くことができるので、リスニングの力が上がったと感じました。授業の内容は、三週間で学べる限りの内容がしっかりと詰められていたと思います。印象に残ったのは文章の要約の仕方や、文章の書き方についての授業で、英語に限らず、今後役立つことが学べました。先生方は私たちの質問にとっても丁寧に答えてくださり、個別に対応してくださるので、細かいところまでしっかり学ぶことができました。最後のプレゼンを、英語で堂々とやりきることができたのも、先生方の丁寧なご指導のおかげでした。

国際交流の面では、台湾の学生ととても仲良くなることができ、台湾をとっても身近に感じることができました。毎日一緒に食事をとってくれたり、土日に観光に連れて行ってくれたり、とても親切に関わってくれたのでいつも楽しい時間を過ごすことができ、本当に感謝しています。私は研修の前から台湾に興味を持っていましたが、台湾の人としっかり関わられて、前よりもずっと台湾のことが好きになりました。

この研修で、魅力的な英語の授業や台湾の学生たちに出会えたことで、今後の学習に必要な態度を学ぶことができ、前よりも英語を好きになり、もっと英語を勉強したくなりました。また台湾での素晴らしい思い出もたくさん作ることができました。本当にこの研修に参加することができてよかったと思います。



中村 遼太郎 工学部電気電子工学科 (2012 年度入学)



今回の研修に参加したことで、自分の中で大きく変わった部分が2つある。まず、英語を話すこと聞くことに対する嫌悪感が少なくなったこと、そして台湾という国が好きになったということである。小さい頃に台湾料理の店に行ったことがあったが、口に合わなかった記憶があったため、今回どうなるか心配だった。また、今回台湾に来て初めの2日間ほどは独特の香辛料の味、香りに慣れずお腹一杯ご飯を食べることが出来なかった。

しかしそれ以降は慣れたためか、TAの人に連れて行ってもらった所がよかったためか毎日の食事がおいしく、楽しみだった。日本語学科のTAと英語学科のTAとの間に少し揉め事もあったが、自分たちのためにいろいろな事をしてあげたいということからだったため、申し訳ない気持ちと共にとっても嬉しかった。このとても親切なTAの人達がいつも一緒にいてくれたため、自分たちがいつも楽しくトラブルに巻き込まれることなく台湾という日本語、英語がなかなか通じない地で快適に英語の勉強をすることが出来たのだと思う。

次に、台湾での英語研修について、一番大きかったところは初めに書いた通り英語を話すこと、聞くことに対して嫌悪感が少なくなったことである。この研修の初めの頃は先生やTAが何を言っているか全然理解出来ず、また自分の思った事を上手く伝えられなくて大変だった。しかしそこで諦めるのではなく、理解出来ないところを質問することで相手の人に理解出来るまで説明してもらったり、いろんな単語等を使ってとにかく自分の思っていることを相手に伝えようとするのが大事だとわかった。そうしているうちに初めは先生とも英語学科のTAの人ともほとんど話さなかったが、研修の後半は少しずつ話すことが出来るようになりとても楽しかった。他には、プレゼンテーションの仕方、エッセイの書き方など英語ではなく日本語においても共通していることを先生が教えてくれたため、今回の台湾語学研修は自分にとってとても大きな経験が出来たと思う。そしてこれから今回の経験を生かして他のことにも挑戦していきたいと思う。



堀 結佳 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

「研修に参加して感じた自分自身の変化」

先生の評価として、プレゼンテーションの練習によって、話し方が流暢になったと Maggie 先生にコメントを頂きました。また、Justin 先生からの課題の評価も前半よりも後半のほうが高くなりました。

私自身の印象としては、「照れ」を捨てることのメリットを実感しました。Eva 先生、Judith 先生は同じ曲「I hope you dance」を授業の最終回で私たちに聴かせてくださいました。その意図は、座っているのは恥ずかしくないし楽かもしれないが、恥ずかしくても失敗するかもしれないでも踊ってほしい、その方がきっとあなたに良いでしょう、というのだと受け取りました。二人の先生だけでなく、この研修で出会ったすべての方々がそう教えてくれたように思います。その歌を聴いてからは意識的に恥ずかしくても自分がこうしたいほうがいいと思ったことは行動に移すようにしました。この変化を私は一番大切にしていきたいと思えます。

「研修で得た経験でこの先も持続・改善・チャレンジしていきたいこと」

研修以前は、読み取りやリスニングを TOEIC 対策の本で勉強していました。研修中は文章作成、相互間コミュニケーションである会話が大きい割合を占めていました。そのため、私は授業についていくことが他の人よりもできていませんでした。教師の指示が正しく聞きとれていないために通訳を挟むなど、勉強以前の問題でした。Judith 先生の言うように、言語の獲得順はリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの順番であると実感しました。今後は英語を聞き取る、英会話をする機会を作り続けて慣れていきたいと思えます。具体的には、個人的に仲良くなった英語学科の学生に Skype でアドバイスをもらいながら会話を楽しんでいます。鳥取大学でも、語学シャワー室の催しをチェックしていきたいと思えます。この成果は今年第 200 回目を迎える 5 月 23 日の TOEIC テストによって（もちろん指標の一つにすぎませんが）数値として確認します。

「最後に」

研修中は銘傳大学、鳥取大学の多くの方々にお世話になりながら、上記に示した「照れずに行動するようになった」、「英会話の勉強を始められた」という成果を得られました。学生としての勉強と個人としての交流によって、研修中の感謝を行動として示していきます。プログラムに参加させていただきましてありがとうございました。





三尾 菜々 農学部生物資源環境学科 (2014 年度入学)

研修前、自分は英語が苦手だと思っており、英語で会話する自分など想像もできませんでした。しかし本プログラムに参加し、会話しようとするうちに自分の思っていることが伝えられるようになっていきました。ぎこちなくはあっても、自分の言葉でコミュニケーションがとれるようになったことがとても嬉しかったです。また、台湾のことをたくさん知れたことも自分にとっては大きな成果です。

今後も英語に触れることを続けていきたいと思っています。触れれば触れた分聞き取れるようになりまし、喋れるようになりました。よって今後も継続して英語に触れ、本プログラムでの成果を保持、そしてさらに英語力を向上させていきたいと思っています。色々な学習方法やサイトなど、これから自分で学習するために必要な様々なことを教えて頂いたので少しずつ自分のものにしていこうと思っています。

今後改善していきたいことは、まず生活リズムです。本プログラムでは提出課題が課されるとはいえ放課後や週末などの自由時間がありました。時間の使い方が上手くなかったために最終日に体調を崩してしまったので、自己管理を引き続き課題としていきます。次に、プレゼンなどの作成についてです。プレゼンの構成に慣れていなかったために時間がかかりました。英語力以前に基礎能力を高めていかなければと、再認識しました。また、もっと日本のことや自分の専門分野について知ろうと思いました。英語で説明する際に、そもそも自分がしっかりと理解していないから説明できない、ということがしばしばありました。インターネットに頼らなくてもいいように知識を身につけたいと思います。

今後チャレンジしていきたいことは、中国語の習得です。単語くらいしか言えませんが、現地語で少しは意志疎通できたのがとても嬉しかったです。多くの TAさんと仲良くなったので、今後も英中日織り交ぜながら連絡をとりあえたらなと思っています。

様々なことを学び、色々な人と触れ合い、とても良い経験ができました。ありがとうございました。



皆木 一磨 医学部生命科学科 (2014年度入学)

この研修で一番大きな成果だと思ったのは技術面でした。英語自体の能力の向上もありましたが、それ以上にとても有効な手段を手に入れました。私は英語もですが、物を書くのが苦手です。いつも書き終えるのにやたらと時間がかかっていました。しかしライティングの授業をこなしたことで、物書きに必要な題材集めなどが楽に行えるようになり、サマリーの書き方から、言いたいことを効果的に人に伝える方法について学びました。これらの経験は今後の大学生活を送るのに非常に役に立つものだと強く感じました。英語を学ぶだけでなく英語で学ぶ姿勢が身につきました。だからこのプログラムは今後の大学生活、延いてはこれからの人生に非常に役立つものだと感じました。授業が文法や単語の勉強といったものではなくて、様々な技術を英語で伝えるというものであったので、英語を勉強するという使命感から解放され、英語を身近に感じるきっかけとなるものであり、またダンプリン作りをしたり、台湾総督府に行けたりなど、台湾文化の体験などの予定も組み込まれていてとても素晴らしい内容だと思いました。

このような海外での経験は私の視野の狭さを示してくれ、百聞は一見に如かずということわざの意味をしみじみと感じさせてくれました。研修に参加する前は台湾と日本は同じアジア圏で、距離も近いので似たような風景や文化、食べ物ばかりがあるのだろうと予想していました。しかし、実際に研修に参加して3週間の時を過ごすことで台湾の人は甘いお茶を好んで飲むということを知り、旧正月には爆竹がなる光景を見て、突っ込んでくる車を見て車優先社会ということを知り、トイレには紙を捨てられないという違いにカルチャーショックを感じました。今回のこの海外経験から、海外については勿論の事、私には様々な分野においてまだまだ多くの誤解の可能性があることを再確認し、自らを見直す必要性を感じました。

また、今後の進路がどのように変わっていても世界中でグローバル化が進む中、英語は必要不可欠なものだと考えています。にもかかわらず、自分の英語能力が不足しているということをこのプログラムの中で思い知らされ、英語の学習に励む気にさせてくれました。又、日本に興味を持ってくださっている方たちがとても多かったので嬉しく思い、私の方も少し中国語にチャレンジして、台湾にもう一度行ってみたいという新たな目標ができました。



吉田 花那 工学部機械工学科 (2013 年度入学)

台湾銘傳大学でまず初めに驚いたことは、先生方の教育に対する熱心さと、学生と教育のレベルの高さであった。日本の教育課程では体験することの出来ない、日本語の文章を書くときにも使えるエッセイの書き方や、文章の要約の仕方、リスニング力向上のための練習法、プレゼンテーションの仕方など、今後も続けて行くことで人生を豊かにしてくれるような学びがたくさんあった。もしチャンスがあるなら、ぜひ長期間にわたって銘傳大学で勉強したいと強く思った。また、歴史的、文化的な観光地に行くことで台湾について知っただけでなく、実際に生活することで、台湾の人たちの生活の仕方や今の考え方などを知ることができた。さらに、英語が使えるだけでお互いの母国語は分からなくても全く違う文化の人たちと交流することが出来るということに日々感動した。しかし時々、表現力の限界が来て、詳しく話すのを諦めることがあったので、詳細なことが伝えられるような語学力を身に付けたいと思った。そのためにも、シャドーイングをしたり、英語で映画を見る機会を増やしたり、台湾の友人と交流を続けていきたい。

台湾で出来た友人はきっと私の生涯の宝となると思う。海外の友人との交流を続けていくことで、語学力の向上だけでなく、お互いの文化や歴史への理解がより深まっていくのではないかと期待している。また、海外の友人との関係を続けていくためには、世界の平和やお互いの国の間の友好関係なども関わってきてしまうので、日本の目の前の学生生活ばかりではなく、世界情勢や国同士の問題などへの関心もより大きくなったと思う。また、台湾の友達に日本の文化について問われたとき、知らないことがたくさんあることに気づかされたので、これから日本の文化や歴史、またサブカルチャーにも関心をもって学んでいきたい。

この研修を通して、台湾の人々と台湾という国を大好きになった。台湾の食べ物は本当にどれも美味しくて安いので、食べるのが好きな私にとっては天国だった。人々は温かくとても親切で、そのホスピタリティに日々感動した。深く仲良くなった分、別れはとても辛かったが、これからも連絡を取り合って仲良くしていこうと思う。台湾の友達が日本に来たときには日本を紹介できるようにしたいし、私もまた台湾に行きたい。



山本 花菜 工学部物質工学科 (2014 年度入学)

今回の研修に行く前は、英語必要性をあまり感じていませんでした。大学受験のために英語の勉強はしましたが、自分は日本を離れる気がなかったので、ずっと日本に居るなら英語を学ぶ必要はないと思ったのです。しかし、台湾に留学して、英語を話せないと意思疎通ができない人たちがいることを知りました。これは当たり前のことですが、自分は外国にはじめて留学して、それを一番体感しました。台湾に来て、様々な人に出会いました。とても仲のいい友人もできました。英語を学んでいなかったら、海外に行く勇気がなかったら、こんなことは到底できなかつた、こんな人たちには出会えなかつたと思うと、心から「英語を勉強していて良かった、海外に行く勇気を出して良かった。」と思います。また、第二外国語として学んでいた中国語を使えたことも良い経験になりました。私は、勉強はしていたものの、その言葉が通じるなどとは到底思っていませんでした。しかし、台湾に行って初めて台湾の人に向かって中国語で話しかけ理解してもらえた時、とてもうれしい気持ちになりました。自分はこの留学を通して、外国語にすごく興味を持ちました。やはり、自分の言ったことを理解してもらえると、語学に対してやる気が出ます。また、私は同時に自分の語学力のなさも痛感しました。自分の目の前に、何かを一生懸命伝えようとしてくれる人がいるのに、それを理解できないということは、非常にもどかしい経験でした。自分も何かを伝えたいと思うのに、言葉が出てこないときが山ほどありました。

語学の勉強は、こういった嬉しさやもどかしさが良いやる気を引き出してくれると思います。自分をもっと言葉を勉強して、台湾でできた友人たちともっと仲良くなりたいと思います。彼ら彼女ら1人1人が考えていること、感じていることはやはり英語やその国の言葉を学ぶことでより理解できるようになると思います。多くの人に支えられ、さまざまな経験ができました。今後は、この経験を生かし、壁を作らず多くの人と交流をしたいです。



## 春期大山短期集中英語研修

国・地域：日本

研修機関：大山共同利用研修所

参加者数：17 名（内、4 名 2015 年度入学予定者）

期間：2014 年 2 月 23 日（月）～3 月 28 日（土）

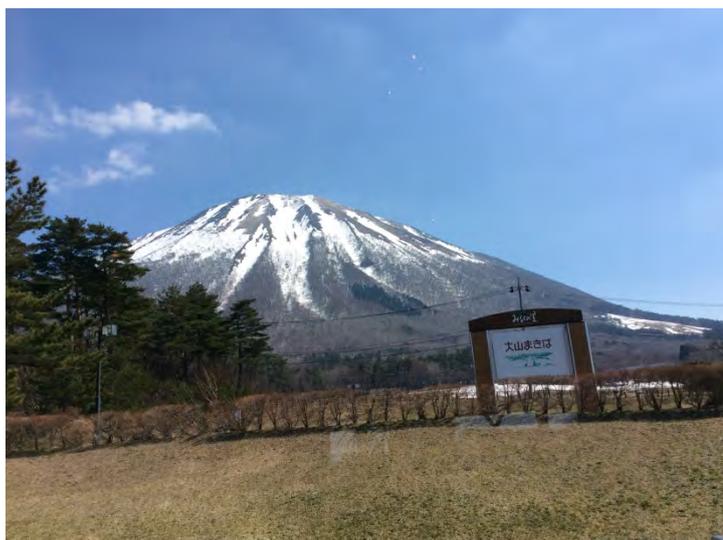
内容：本学英語講師による英語の実践能力（会話力、ディベート力、聴解力、プレゼンテーション能力）の向上を目指した集中合宿を行います。授業は英語で進められ、国際的なトピックを扱うことで、国際理解力やグローバルな価値観を養うことができます。外国人留学生等が TA として参加し、参加者の英語学習をきめ細やかにサポートします。途中で、大山寺やみるくの里のフィールドトリップ（課外学習）に参加します。



伊藤 麻由 医学部保健学科 (2013 年度入学)

今回の研修で最も学べたことは、日本にはない、食事や生活習慣におけるマナーでした。日本では「いただきます」で食事を始めますが、アメリカにそのような言葉があると思っていませんでした。途中で席を外すときは、周りに一言かけることは日本でも常識だと思いますが、英語で何と云えば良いか知りませんでした。研修が始まった頃は、みんな無言で立ち上がってしまっていました。食べ終わったら、料理にも一緒に同じ時を過ごしてくれた周りの人にも感謝すること。これは日本には無い習慣で驚きました。「ごちそうさまでした」は、そのご飯に対する感謝ですが、周りの人に何か言うことはなかなかありません。毎回の食事の度に続けていくことで、自然と言えるようになって良かったです。インタビューテストでは、May I come in?と言ってから入るようにと教えてもらいました。このようなマナーは、教科書では知ることができないと思います。でも、海外に出たときに必要な知識です。これらを知れたことは大きな変化でした。海外に行ったときのことを考える一方で、日本での生活について考えることもありました。3 日目の午前中は大神山神社奥宮までガイドの方に案内してもらい、昼食に精進料理を食べました。高校生の頃、日本史を社会の選択でとっていたので、本地垂迹説や神仏習合など知った言葉がたくさん出てきて、とても興味を惹かれる内容でした。鳥取、島根は歴史的建造物や書物が比較的多く残っています。今まで、そうとは知らず、全然山陰の歴史について興味を持っていませんでした。因幡の白兔の伝説や、くにとびき神話など有名な話がたくさんあります。これを機に、せっかく今鳥取に住んでいるのだから、山陰の歴史や神話などを調べ、海外の人に紹介できるようになりたいです。

なかなか米子キャンパスでは、国際交流をするのは厳しいのが現状です。週に1回でも、湖山キャンパスのように海外の人とコミュニケーションがとれる機会があればいいなと思います。また、湖山キャンパスで行われている課外の中国語など、自主的に英語以外の言葉を学べる機会があれば是非参加したいです。



出口 知絵 農学部生物資源環境学科 (2015年度入学予定)

今回の英語の研修では、英語でのコミュニケーション能力向上も、もちろんありましたが、礼義面で学べることもたくさんありました。研修初日は、英語でコミュニケーションがとれるのがとても不安でしたが、少しずつ自分の思っていることや考えていることを表現できるようになりました。アイスクリームを作ったり、大山寺へ行ったり、バーベキューをしたりと、普段はできないような経験をすることができて、今回の研修に参加してよかったと思いました。日本だけでなく、他国の方の参加もあり、英語にも色々あるのだということが、実感できました。研修前半はあまり、聞きとれなかったけど、だんだん何を言っているのかがわかっていって、とても嬉しかったです。研修では、プレゼンテーションも行いました。私は、今までプレゼンテーションをしたことがなかったので、ちゃんとできるのか不安でしたが、プレゼンテーション当日までしっかり準備をして、多少のミスはありましたが、なんとか自分の考えを英語で発表することができました。今回のプレゼンテーションの経験は、今後にも生きてくると思うので、日本語でのプレゼンテーションの時にも今回の反省点やよかった点を忘れずに、これからにつなげていきたいと思います。今回の研修を通して、まだまだ自分の語彙力が足りていないなと感じたので、これからもっと語彙力を増やすために、単語の学習をしていきたいと思います。また、英語をききとる力もあまりないと自分で思ったので、洋画を工夫して見たり、外国の方と交流をしたりと自分で考えて聞きとる力を伸ばしていきたいと思います。英語の表現で、カジュアルな言い方と丁寧な言い方の違いなどもたくさん教えていただいたので、その場その場で考えてどちらを使うのか決めて使い分けをちゃんとできるようになりたいです。今回の研修では、自分の改善すべきところが見つかったため、その改善すべきことをこれから少しずつでも改善していきたいと思います。



太田 勝也 工学部電気電子工学科 (2012 年度入学)

私は今まで英語は苦手が好きではないという理由で、目を背けていました。しかし、三年の一月に将来の自分を想像したとき英語は必ず必要になると確信しました。今回の研修に参加したのは、英語に対する気持ちを変え、何か良い刺激を受けたいと思ったからです。しかし、英語の基礎的な能力も持っていない自分にとって今回の研修はかなり厳しいものでした。ネイティブの先生やTAの話すスピードは速く、何とか聞き取れたとしてもすぐに頭に意味が浮かんでこない、話そうと思っても簡単な文章もなかなか作れず話が終わってしまう、このような悔しい思いを何度もしました。研修の途中で何度も挫けそうになりました。しかし、自分が話しやすい話題に何とか持っていけば少しは話すことができました。全体での理解度は低くなってしまったが、最後のプレゼンテーションをこなすことができたので少しは成長したのではないかと思います。ただ、もう少し単語をたくさん覚えていたらより多く話すことができもっとコミュニケーション力が付いたのではないかと思います。

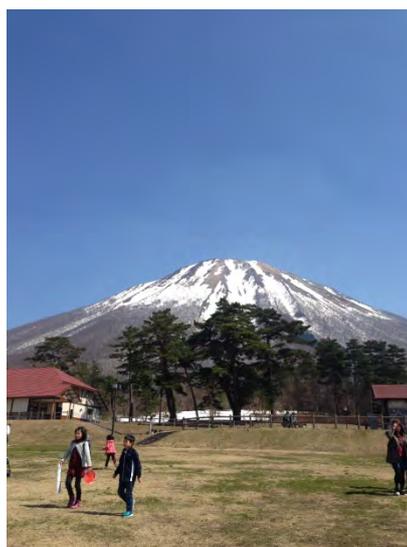
今回の研修で私は、このままではいけないと強く思いました。まずは中学レベルの英語からしっかり鍛えなおさないといけないと思いました。また多くの課題を見つけることができました。そして、一番の収穫は英語に対する意識が変わったことです。この研修をきっかけにもっともっと英語力を伸ばしたいと思いました。後輩や高校生から大きな刺激をうけ、自分は年上なのに全然ついていけない強い悔しさがあったので絶対にうまくなってリベンジしたいと思います。研修を通して、継続して英語の勉強をすることの大切さを学びました。私は大学院に進学する予定です、そのためあと三年間英語の勉強を続けていきたいと思っています。また学部4年の夏あるいは大学院1年の夏に海外短期留学をしたいなと思っています。そのためにもスキルアップして積極的に挑戦したいと思っています。



岡本 陸 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学)

私は英語がもっと話せるようになりたいと思い、このプログラムに参加しました。プログラムの最後のほうでは前よりすらすらと言葉が出てくるようになったし、自分の言いたいことがすぐに言葉にできるようになったというのは実感しましたが、1 番伸びたのはリスニング力だと思います。このプログラムに参加した TA はいろいろな国の人がいて、みんな英語を話すけどその土地の訛りのようなものがあって最初は聞き取りにくいこともありましたが、しかし、慣れてくると相手の話し方の癖も分かって聞き取りやすくなりました。だから英語を聞くことを習慣にするだけでもリスニング力の向上につながると思うので、これから努力していこうと思いました。プログラムの最初と最後にインタビューがあり、先生の質問に答えていく形式でしたが最初聞き取れなかった質問も、最終日のインタビューでは聞き取れてしっかり答えることができました。

英語で自分が伝えたいことを伝えることは、日本語で伝えるよりも難しいけど言葉にするほど上達していくと思っていたので、普段の生活よりも自分の意見をはっきり言うことができました。日本語での生活だとあまりそうはできないのですが、英語でできるのだからこれからそうしていきたいと思いました。TA のプレゼンテーションが多くて海外についての知識がつけられたし、前から語学留学などのプログラムには参加したいと思っていたのですが、それを実現させるための勉強のモチベーションが上がったと思います。このようなプログラム参加すると鳥大生の今までかかわりのなかった人たちと関わって友達の幅も広がったし、やはり参加者は全員英語力を向上させる意欲が高いので、質の高い授業が受けられて良かったです。夏休みのプログラムに参加する予定ですが、TOEIC という目標を作って今のモチベーションで英語学習が持続できるようにしたいと思います。日本にいながら様々な国の人と交流できて英語力が身につくので本当に参加できてよかったと思います。



景山 和仁 工学部知能情報工学科 (2013 年度入学)

僕は元々語学学習に興味がありましたが、留学や海外での語学研修は、費用が高く、参加が困難でした。しかし、今回のこの大山研修は、常時英語を使用するという海外と近い環境でありながら、近場でかつ価格も高くないためこのプログラム参加しようと思いました。

グループごとに国外の方が TA として付いてくれていて、まるで海外にいる時と同じような雰囲気でも過ごすことができました。そして TA さんたちは色々な国の出身の方がいらっしやり、他国の文化や習慣についても学習することができました。さらに、出身国によって発音も様々だったのでアジア、ヨーロッパ、アフリカの人の発音を一度に聞いたのでとても貴重な体験ができました。この研修では英語でのプレゼンテーションや会話の練習などをするだけでなく、大山寺に出かけて歴史を学び、精進料理を食べたり、アイスクリーム作りを体験するなど楽しいアクティビティも用意されていました。ただ遊ぶだけでなく日本の歴史を見つめ直すことで、世界の中で日本の文化がどのように変化していったかなどを学ぶこともできました。

最初はずっと英語を話すことが困難ではありましたが、基本のキーフレーズが載った紙などに頼りながらではありましたが、徐々に会話ができるようになりました。また、ルームメイトの TA さんと話すうちに段々と自分が言いたいけど分からない表現などに自然と気づくようになって積極的にそれを聞いたりして努力をして、解決できました。

最後に、僕はこの研修を通して日常的な会話がただ身についただけでなく、積極性やチームワーク力が身についたと思います。僕の寝室は日本人3人とケニアの TA さんの4人だったのですが、とても僕たちのことを気にかけてくれて僕たちもただ受け身で会話してただけではいけないと気づいて積極的にコミュニケーションをとろうと心がけることができました。

この研修で得た経験を通して、次は他の海外の語学研修に参加してさらに自分の英語能力に磨きをかけていきたいと思っています。



木内 美月 工学部物質工学科 (2014 年度入学)

私は今回初めて学校の研修に参加させていただきました。英語のみを用いて生活することは初めてだったので行く前はとても不安でした。そして研修が始まりました。最初は私の勉強不足で簡単な英語での挨拶も分からず、戸惑いました。しかし、日を重ねるにつれ簡単な会話をこなすことは出来るようになったと思います。

そして、今回の研修で一番勉強になった時間は食事の時間でした。ブルックス先生にアメリカ式の食事のマナーを教えてもらい、それに従いながら周りの人と英語で会話するといった一番実践的なものだったと思います。あと毎回食事が豪華ですごく美味しかったです。

部屋では TA の留学生と一緒に毎晩会話を楽しむことが出来ました。そして、英語を話すのが辛くなったときや、日本語が恋しくなった時は、日本語を使ってもよい空間に行き、日本人学生とも話し、5泊6日の研修にしては、さまざまな学生ととても仲良くなれたと思います。

最終プレゼンテーションでは、みんなが頷き、合図地を打ってくれるとてもアットホームな空間でのプレゼンテーションで特に緊張することもなく楽しんで出来ました。私自身初めて英語でプレゼンテーションを行いました。楽しみながらすることが出来たし、英語を用いて何かを伝えるという貴重な体験をすることが出来ました。

今回の研修に参加して、自分の英語能力がいかに上がってないか、を実感できたと思います。普段授業では一般的な会話か、文章の読み方を習いますが、今回は実践的な形での挨拶やそして会話を成り立たせるためのリスニングを学ぶことが出来ました。私はまだ海外に行っていないのですが、留学を視野に入れています。海外に行く前に必要最低限のマナーや、会話力を国内で学べたのはよかったです。自分の今までの英語の勉強はひたすら文章を読むというものでしたが、それではスピーキングには繋がらないということが分かったのでこれからは英語で日記を書くことと、また何か学校の研修に参加させてもらい実践的に英語を学びたいです。楽しく、友達も増え、勉強を学ぶのは勿論、勉強の仕方を学ぶことができ、得るものの多い5泊6日でした。



酒井 恵里香 医学部医学科 (2011 年度入学)

平成 26 年度春期大山短期集中英語研修プログラムは楽しかった。その一言に尽きる。乱暴な言い方かもしれないが、やはり楽しかった。

私がこの研修を楽しいと感じた理由は複数あるが、そのうちの理由の一つは、毎日自分自身の英語力の向上が感じられたことだと思う。大山研修では TA (Teaching Assistant) とはもちろん、日本人の参加学生同士でも英語で会話する。それによって speaking の力は毎日確実に伸びたと思う。今まで speaking 中心ではなく主に reading、writing、listening を勉強してきたせいもあってか、6 日間 24 時間ずっと英語を聞き、話すということは最初は大変だと感じた。なかなか慣れなかった。いや、最後まで慣れないと感じてはいた。しかしだからこそ毎日試行錯誤することによって speaking 力は上がったのだと思う。蛇足かもしれないが補足しておく、大山研修の授業では英語でプレゼンテーションを行ったり、paragraph writing などの勉強もあったのももちろん speaking 以外の英語力も向上した。しかし、speaking の力が一番上がったと私は感じている。

新しい人との出会い、これも私が大山研修を楽しかったと感じている理由の一つである。TA、参加学生、Brooks 先生、引率の先生方。約 25 名もの人達との新しい出会いがあった。参加学生は皆英語を学びたいという強い気持ちを持っていたし、皆のその気持ちにつられて私ももっと英語を頑張る勉強したいと思えるようになった。TA の皆は語学に対してとても積極的だったので彼らのそのやる気も私に良い影響を与えてくれた。また、今回の研修には高校生も参加していた。彼女達はこの春、鳥取大学に入学するそうだ。つまり、新 1 年生だという。彼女達の学習への意欲は感嘆に値するものだと思う。そして当然のことだが、新しい人との出会いというのは私に良い影響を与えるだけでなく、ただ楽しい。私は日々米子キャンパスで学生生活を送っているの湖山キャンパスの他学部の学生の日常生活を知るとは興味深いし、TA 達の出身国の話を聞くのも面白い。大山研修は私にとってとても良い経験になったと思う。

研修が終わって今、日々の雑多な用事に忙殺されている。専門である医学の勉強も忙しい。しかし大山研修で得たこのやる気をもとに日々英語の学習を続けていきたい。つらくなった時には大山研修での楽しかった、有意義な思い出を思い出して頑張りを続けていこうと思う。本当に大山研修に参加してよかった。楽しかった。



佐田 吉隆 大学院医学系研究科 (2013年度入学)

「学力の変化について」

研修序盤は、あまり英語力が向上している実感がありませんでした。やはり、1週間程度の研修ではそれほど効果がないのだろうと思っていましたが、最終日辺りから、大昔にどこかで聞いたようなフレーズがどんどん蘇ってきました。もう若くはないので、なかなか新しく覚えるのは難しいのですが、若い頃勉強したことは、頭の片隅に残っていたようです。もう何日か研修を続けることができれば、確実にワンランクアップしそうな実感がありました。また、知らず知らずに英語モードに切り替わっていたのでしょ、研修が終わってから、しばらく日本語が出にくかったです。

「コミュニケーションの重要性」

私はこれまで英語の授業や英会話学校以外で、外国人の方とマンツーマンで会話したことはありませんでした。講師はたいていアメリカかイギリスの方でした。今回の研修では、TAは日本に明るい方ばかりということはあるのですが、同室の Luke 先生 (Fiji) や David 先生 (Kenya), Irena 先生 (Lithuania) など大変親切に会話に付き合ってください、私の英語でも何とか通じること、また欧米以外の方でもお互いに共感できることなどを実感することができたことは、大変貴重な体験になりました。また、中年を過ぎると日常的には若い人達から敬遠され、お話しする機会はほとんどありませんが、この研修では「英語」という仮面が壁を低くするのか、若い学生さんと友達のように話す機会もありました。コミュニケーションを取るといことは、お互いを気遣うということだとあらためて感じました。若い人から力をもらえたようで、楽しい時を過ごすことができ、大変良かったです。

「講師について」

エネルギーでポジティブな BROOKS 先生の態度は、異文化交流する上で、見習いたいと思いました。先生の英語は比較的聞き取りやすく、講師として大変良かったと思います。

「今後チャレンジして行きたいこと」

研修に参加して、もう少し (かなり?) 若ければ留学したい! と本当に思いました。私が学部生の時にこのような研修に参加していれば、人生変わったように思います。英語の楽しさを再認識しましたので、Independent Study Timeで行った、ヒヤリングの勉強やペーパーバックの購読などを続けていきたいです。



柴田 未来 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学予定)

私はまだ高校3年生という身でこのプログラムに参加できたことを嬉しく思います。参加して感じた私自身の変化は入学前に参加できたことで大学での英語の授業やその他の事でもほかの人より上にいたいという気持ちになりました。確実にモチベーションが上がりました。今後続けていきたいことは日本語でも英語でも話を聞いているとき、常に疑問を持ち考えそれを言葉にして伝えることです。やはり、日本人は質問するような習慣が少ないため日本を出るとどこかしらでマイナスになってしまいます。私は一度留学を経験しており、アメリカと日本の違いを実感し、積極的であるというところを自分の中に取り入れようといっていました。少しずつ改善しようとしていますが、このプログラムの中では発揮できず、これから始まる授業などで思ったことは“恥ずかしい”などと思わず“やらない後悔よりやる後悔”というこの言葉を胸に大学生活を送りたいと思いました。このプログラムで改善したいと思った点は、人前に出るということに慣れたいということです。最終プレゼンで一人ですとなった時不安で仕方ありませんでした。いざ発表となれば少しは落ち着くものの、うまく話せないところがありました。高校でもこれは直そうと人前に出る機会があれば進んで前に出ていました。これから、プレゼンテーションをする機会は増えていくと思うので、もう少し自分に自信をもって堂々としたと思います。そして、プレゼンテーションのやり方を学んでいくとどうしたら伝わりやすいか学べると思うので数をこなしていこうと思いました。チャレンジしていきたいことは、人と話しているときに気づきました。それは、会話しているときのボキャブラリーを増やしたいということです。同じフレーズばかり使って会話をしており、時によってこのフレーズを使うという区別ができてないため、さらに勉強をして実践で使う必要があると思いました。この合宿をはじめとして、他の語学研修などに参加していこうと思います。最後に、もともと立てていた予定と違うことが多々あり、驚いたことはありましたが、村島さんがおっしゃった“その時にしかできない出会いを大事にする”という言葉聞いて、そういう考え方も大事だと学べることができました。6日英語漬けで頭を使い疲れましたが、私の糧になったことは間違えのない体験でした。



投石 浩次 医学部医学科 (2013 年度入学)

多くの日本人は、英語の読み書きはある程度できるものの、会話の手段として実際に使った経験に乏しく、あまり自信がない、といった話を耳にします。私も全くそのようなタイプでした。テストや試験ならそこそこ点数がとれるものの、自分の考えを伝えるものとして使ったことはあまりなく、ましてや英語で何かを考えたことなど全くありませんでした。しかし厳しく日本語を制限され、英語を使わざるを得ない環境に身をおくことで、英語を使うことをためらわない姿勢が身についたと思っています。圧倒的に不足しがちな、自分の頭で英文を考える作業を、この数日間だけで、今までの人生での総量に匹敵するのではないかと思います。大山合宿から得られるものを最大化するためには、積極的にコミュニケーションをとりに行くことが欠かせないと思いますが、そういった姿勢も、自分の幅を広げるいい機会になったと思っています。

またプレゼンテーションの授業では、日本語では恥ずかしくて言えないようなことも、英語ではストレートに表現できたのも、大きな収穫でした。複雑な表現ができない分、今まで自分の頭のなかで混沌としていたものが、シンプルにアウトプットすることができるのは、予想もしなかったもので、大変うれしかったです。国境や文化を越えて何かを伝えるには、分かりやすい言葉を用いる必要があるのではないかと思います。意外にそれが自分にとってもプラスに働くことがあるのだと実感されました。

今回の合宿で中心的に指導してくれた Mr. Brooks は厳しい先生ですが、丁寧な英語や、丁寧な西欧マナーを学ぶ機会が少ないので、得がたい経験であったと感じています。学んだことを風化させず、今後の自分の人生に生かすためにも、国際的な視点を持ち続けていきたいと感じました。



西山 綾乃 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学予定)

私は高校生として、今回の研修に参加しました。入試によって、英語が得意な前提ということで参加したこの合宿。この研修中は日本語を使ってはいけない、英語で話さなければいけないというルールがあり、それが最大の困難でした。英語ができるのだろうというプレッシャーや、周りは大学生や大人や外国人ばかりで、研修当初はストレスをととても感じていました。一日目からストレスがととても溜まっていく上、合宿所の個人部屋で泣いてしまいました。その時、偶然ティーチングアシスタント (TA) のイレーナが、「たったの一週間だけだから心配することない。それに、英語に自信が無くてもどんどん挑戦していくことが重要な。」と英語で言ってくれました。その次の日から、いい単語が思いつかない時は別の単語を使ったり、ご飯の時間の時はなるべく TA の先生達の隣や周辺に座るようにしました。それからは、英語を話すことに多少の照れや恥じらいは無く、むしろ英語を話すことが楽しいと感じていました。耳も英語慣れをしたようで、最初はセンター試験や模試などのリスニングをしているような感覚で聞いていたのが、段々と日本語を聞いているのと同じような感覚になっていきました。この耳の英語慣れは自分の中でも本当に驚いた変化のうちの一つでした。また、英語の収穫が多かったこの大山研修ですが、まだ高校生だった私にとって大きいと感じた収穫は、入学前から先輩と知り合いになれるということと、抗議や友達やサークルについて詳しく聞くことができたことです。この研修で知り合った先輩方は幸運なことに皆さん優しく、親しみやすく、とても頼りになりました。そして、入学してからも建物内や道ですれ違う時に声を掛けてくださったり、他の英語プログラムで再開するなど、嬉しい驚きが多々ありました。またこの研修を最後に、TA の先生のうち 3 人は島根に行かなければならず、最終日には英語で手紙を書いて渡し、別れを惜しみました。この 5 日間は私を英語力、人間性などいろいろな面で成長させたと思います。大学 1 回生となった今、この研修の経験を生かして英語プログラムに積極的に参加したいと考えています。頑張りたいです。



稿本 朱音 農学部生物資源環境 (2014 年度入学)

このプログラムには英語が苦手を使う事にも躊躇している自分を変えたくて参加した。本当に1週間過ごすことができるのかという事やコミュニケーションをとりながら過ごせるのかという事が不安であったが研修に勇気を出して参加してみてよかったと感じている。

研修前は前述したように授業の時ですら英語で話すことに恥ずかしさを感じていた。しかしできる限り英語で伝えよう、会話しよう意識し続けることができる環境にいたことで恥ずかしさを感じずに返事や挨拶をすることができるようになった。食事の時のマナーやプレゼンテーションの方法など将来役立つことも多く学べてよかったと思う。いただきますやごちそうさまといったフレーズを使わないという事にはやはり大きな違和感があった。しかし、一緒に食べようといったニュアンスの言葉で食事が始まりご飯が美味しかったという事を告げることや、食事を共にした仲間感謝したりする習慣を知り人々とのつながりを大切にしていることが良いことだと感じた。また席を立つときにも一声かけるなど互いに配慮していることも感じられた。例え日本語で生活するような場合でもこのような精神は生かしたい。この研修に参加しているメンバーは海外への留学を考えている人や外国人の方と会話したいと考えている人が多くて非常によい刺激を受けることができたという事も参加してよかったと感じた理由の一つである。しかしTAさんや講師の先生は聞き取りやすいように話してくださったり、話したいことを汲み取ろうとしてくださったり、また日本人同士英語で話すとなんとか伝わったりという事もあり日本での研修の有りがたさとこれではいけないという自分の中での葛藤があった。このことからできるならば実際に海外に出てみたいということを強く感じた。どこに行きたいかや精神と学力の問題で本当に行けるのかというような問題はまだ残るが大山の研修で得た刺激を踏み台にして頑張っていきたいと考えることができた。



久本 修一郎 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学)

3月23日から3月28日に大山英語研修があった。私が応募を決めたきっかけというのは、語学力向上と、いずれ海外へ行きたいという願望、将来の自分に対して何か少しでもプラスになればという動機だった。国内の研修を選んだ理由は海外研修に比べ、研修費用が非常に安価だという経済的理由と国外に出ることの不安という、少し私的な理由からであった。この研修を受けて実際に体感することが出来たのは、自分の表現力のなさであった。先生の言っていることはある程度理解できるが、自分の言いたいことが英語にならない。また、議論などではそもそも言いたいことが英語に出来ないこともあった。しかしクラスには下手な英語でも熱心に聞こうとしてくれる仲間がいて、なんでもいいから話さないと、電子辞書を片手に懸命に言葉を探り、自分を表現しようとすることで実践英語を鍛えることが出来たと思う。また、研修で一番大変だったことはやはり、英語をしゃべるといことに慣れるということだった。慣れない環境に慣れない英語。最初の2,3日は、1日が終わったときの疲れは多く、一日がとても長く感じた。一週間もすごせるのかととても不安だった。しかし不安は杞憂となった。すぐにこの環境に順応することができたし、英会話についても思った以上に意思疎通ができるようになった。そして何より、同じ立場の友人がいたことが自分にとって大きな力となった。リスニングのスキルは英語に囲まれて生活することで耳が慣れ、成長することができたと思う。しかし恐らく、この英語研修で英語が上達したとは思えない。恐らくこの研修はきっかけに過ぎないのだろう。だが英語力の代わりに自分と同じ意思を持つ友達ができ、また英語のみしか話せないという通常、生活をしていても決して得られない貴重な経験を積むことができたことは大きな成果であったと感じている。それだけでもこの英語研修に参加した意味はあった。もしこの研修に参加したいと思う方がいたら、英会話が出来ないことを恐れずに参加してほしい。このプログラムの目的はもちろん語学研修であったが、語学以外のことをより多く学ぶことができた研修だったと感じている。英語研修に参加する機会があるならば、実際に体験してみなければわからないことをぜひ一度、自分自身の心と体で体験していただきたいと思う。



藤 雅子 農学部生物資源環境学科 (2013 年度入学)

たった6日間、しかも日本に在がらの英語研修で、自身の変化を感じることが出来るの  
だろうかと半信半疑であった。だが研修を終えた今、過去の大山英語研修の参加者たちの多  
くが、それぞれの「鍵」を見つけて、次のステップとして海外研修プログラムへ進んでいる  
訳がようやく理解できた。

様々な面で実り多い研修であったが、私は特に研修での学びについて述べたい。まず、「グ  
ローバルな学びとは、なんと面白いこと！」と気づかせてもらったことが、研修で得た収穫  
の一つだ。今回の研修では、TAと先生方を含めて7カ国の出身者と日本人という国際色豊か  
な環境のなかで過ごせたおかげで、一度に様々な国について学ぶことができた。なかでも面  
白かったことは、ある問題が国が違くと視点も異なったり、日本が他国と意外なところで密  
接に関係していると知れたりして、隠し絵に気づいた時のようにハッとした驚きを幾度も体  
験したことである。そして、それらの話はTAたちから直接聞くことで、どこか遠い世界で起  
きていることではなく当事者として深く考えることができたことがさらに良かった。

また、TAたちからそれぞれの国のことを教えてもらったと同様に、私たちがアクティビテ  
ィや共同生活、日本の文化についてのプレゼンテーションを通じて、日本人の文化や習慣を  
彼らに教えることが出来たと思う。国際交流の場ではこの give and take の関係によって、  
様々な国の人が互いに学び、理解し合うための土壌が出来上がるのだとも知った。

さらに、研修で得たもう一つの収穫は、日本人特有の「外国人に対する、ひるみ」がなくな  
ったことである。始めはTAたちを外国人として見ていたが、彼らと1週間の共同生活をし  
ていると、次第に彼らの個性が見えてきて、意識してその中身(芯)の部分を知ろうと努力す  
るようになった。すると、出身国や人種は大事なアイデンティティのひとつであると理解し  
た上で、外国人を「外の国の人」ではなく、「ひとりの人」と捉えて相手を受け入れることが  
自然に出来るようになったからだと思う。

この研修のおかげで、グローバルな学びがいかに面白いかを教えてもらい、外国人に対す  
る理解も出来るようになった。だから今の心境として「グローバルな人材になりなさい！」  
と言われるから、ではなく「グローバルな学びが面白い！」から、この研修のように様々な  
国の人が集まる環境に身を置いた環境で学びたくて仕方がない。次のステージに進む気持ち  
の準備はすでに出来ている。



村田 桃子 農学部生物資源環境学科 (2015 年度入学予定)

この研修は英語研修といえども、宿泊地は日本。その中で、英語だけで生活するなんて、果たしてできるのだろうかと不安でした。しかし、その心配は無用で、研修所が日本だと思えないような、とても本格的な研修でした。

宿泊施設では一部の場所を除いて、当然ではあるのですが、英語で会話をしなければいけませんでした。私は海外などで英語を話さないといけない状況はあっても、約1週間も英語だけしか話してはいけない状況というのは初めてで、しかも研修所の中で缶詰め状態であって合宿当初はストレスを感じていました。しかし、プログラムはただ英語を話す練習のような授業を受けたりするのではなく、大山寺へ実際観光に行き、その時に得た大山寺の歴史について情報をそれぞれ発表し、それをみんなで共有したり、洋画を鑑賞し、ひと昔の英語の使い方やニュアンスを学んだり、英語のレシピを見ながらアイスクリーム作りしたりするような、決して堅苦しいものではなかったのが、楽しく、それでいてしっかりと英語を学ぶことができました。

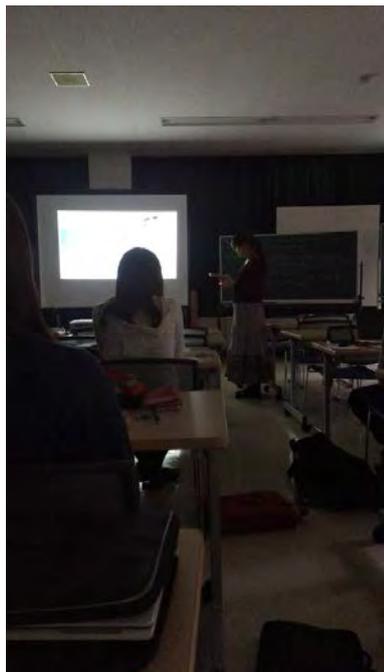
また研修にはTAとして、様々な国からの留学生が参加しており、多くの場面でこちらの英語の文法のチェックや手助けをしてくれました。TA全員が、英語が母国語ではないにも関わらず、とても高い英語力を持っており、また日本語も話すことができる人が数人いることに、私は衝撃を受けたのと同時に、自分の英語学習における強い向上心を持つことができました。また、TAのそれぞれの出身国についてのプレゼンを聞く機会もあり、今まで馴染みのなかった国について知識が身に付き、またプレゼンの仕方からどうすれば魅力的なプレゼンができるのかを考えることもできました。

周りには大山の雄大な自然が広がっているという非日常の中で、英語をただ学ぶだけでは得られない、数えきれないほどの貴重な経験ができました。これからも、この研修を乗り越えたということを自信に、英語学習を頑張っていきたいと思います。



山本 朋実 工学部機械工学科 (2013 年度入学)

大山英語研修は日本での実施ですが、細かいところまで英語になっていて日本にいながら海外での生活を経験しているようでした。実際に海外に行った経験はありましたが、日本人の友達がいるとついつい日本語を話すことが多かったですが、しかし、大山英語研修は日常もすべて英語という規則の中で生活するので、海外へ行ったときよりも英語で話していることが多かったと思います。今回 5 人の TA も一緒に参加してくれました。様々な国からの留学生で、一人ひとり、アクセントや発音など話し方の違いがあり聞き取りやすい人、そうでない人といました。国により個性があることは知っていましたが、かなりの違いに戸惑いを隠せませんでした。ですが、参加してくれた留学生皆、親しみやすく英語が苦手な自分でも分かるまで何回も説明してくれて、本当に親切でした。また、研修ではずっと勉強ではなく、大山寺に行き、大山寺の説明や精進料理を食べ、新たな知識も増えると同時にその大山寺の話しを TA の人たちに英語で説明するのは難しかったですが、大変いい経験になったと思います。海外で自国の細かな説明がはっきりと英語でできないという事実を付き付けられ、改めて英語の重要性を感じました。それと同時に日本という国の文化などをしっかりと説明できるぐらい理解する必要があると感じました。また、授業では TA の人たちのプレゼンを聞く機会があり、その国の文化や、地理的特徴など難しい話が多かったですが、大変興味深いものも多かったです。授業の最終プレゼンでは、日本文化の 100 年間の変化についてでした。普段は全くそのようなことを考えないので、プレゼンを作るときに悩ませられることになりました。プレゼンはなかなか過酷なものになりましたが、とてもいい勉強になりました。英語でのプレゼンは初めてでしたが、TA の手助けがあったのでなんとか完成できました。至らないところが多く残るプレゼンでしたが、その分学ぶことが多かったと思います。大変なことが多かった研修でしたが、これからの英語学習にはいい影響を与えてくれたと思います。この研修を企画してくれた全ての人、また助けてくれた人皆に感謝です。



渡部 桃子 医学部医学科 (2011 年度入学)

英語力もなく意気地もない私だが、勇気を出して参加して良かったと心から思う。研修を終えてみて自分の中に3つの変化があった。一つは、簡単な英語でも伝えられると実感したこと。二つ目は、英語はツールにすぎず、人と関わる姿勢が大切だと知ったこと。もう一つは、世界で通用する人になりたいと思ったことだ。

一つ目について。大山英語研修では、授業やアクティビティはもちろん、食事、入浴、就寝前の会話など全てを英語で行う。「ごはんどうだった?」「おいしかった!」レベルの簡単な会話をするうちに、英語への抵抗が自然と消えていった。先生や Teaching Assistant の皆さんが耳を傾け、分かりやすく話してくださったおかげで、伝わる!分かる!と実感できた。ただし話が盛り上がってきたときや T.A. 同士で話しているときなどは速くてとても聞き取れなかったので、リスニングをしたり英語で映画を観たりすることを今後の課題としたい。

二つ目について。2 日目に参加者の一人と話していたときのこと。彼女はメンバーの名前を全員覚えたというのだ。初め私は、名前は英語を話す上で必要でないし自然と覚えられたらよいと思っていた。しかし彼女曰く、話しかけやすくなるので早く覚えるべきだ、と。周囲を見てみると、ある T.A. は覚えにくい日本人の名前を覚え、誰よりも積極的に話しかけていた。また参加者の一人が私の名前を呼び話しかけてくれたが、恥ずかしながら私はその子の名前をまだ覚えていなかった。私は全員の名前を覚えることを決め、その日のうちに覚えた。この経験から学んだことは、英語力があっても、人に興味をもち関わろうとする姿勢が無ければ意味がないということだった。日本においても普段の生活のなかで人との関わり方を見なおそうと思っている。

三つ目について。世界で通用する人といっても偉大な人になりたい訳でなく、異なる文化の中で通用するマナー、考え方を身に付けたいという意味だ。講師の Mr. Brooks は“Push Your Chair!” が口ぐせの大変厳しい人だったが、その訳が今では分かる。人を不快な思いにさせないことは円滑なコミュニケーション、人間関係、さらにいえば国同士の良好な関係を保つうえで大切だと教えてくださっていたのだ。

プログラムを準備、指導をしてくださった先生方、T.A. の皆さん、学生の皆には感謝してもしきれない。この経験を今回で終わりにするのではなく、今後人間として成長するスタートにすべく、努力しようと思う。



## 付属資料

### 学生アドバイザー作成の募集説明会紹介ポスター

2013年度春期アメリカ英語研修参加学生アドバイザー

高見 柚衣 工学部生物応用工学科

計倉 圭助 工学部機械工学科

2014年度マレーシアマラヤ大学英語研修参加学生アドバイザー

川口 智 工学研究科社会基盤工学専攻

早崎 陽美 農学部生物資源環境学科

2013年度春期台湾銘傳大学英語研修プログラム参加学生アドバイザー

和田 一真 工学部機械工学科

橋口 未迪 農学部獣医学科

2014年度夏期大山短期集中英語研修参加学生アドバイザー

深内 百合子 農学部生物資源環境学科

大和 純也 工学部応用数理工学科

平成26年度

# 春期台湾銘傳大学英語研修

感動の出会い! 可能性への挑戦!!  
史上最高の3週間が台湾で待っている!!!



募集期間  
11/10月  
～  
11/30日

研修日程: 2015年2月25日(水)～3月20日(金) 開空発着の予定

研修先: 台湾・桃園市 (銘傳大学桃園キャンパス)

費用 : 約15万円 (奨学金6万円)

応募方法 下記URLから応募ページへ!

グローバル人材育成推進室HP <http://global.ciatu.tottori-u.ac.jp/online-application>

特別個別相談会 11月13日(木)、11月21日(金) 語学シャワー室 12:10～12:50



研修日程  
2/28～3/22

## 2014年度 春期アメリカ英語研修

研修先: アメリカ合衆国 アーカンソー大学

特別個別相談会 11月13日(木)、11月21日(金)  
語学シャワー室 12:10～12:50

## 2014年度 春期オーストラリア英語研修



研修先: アデレード大学(オーストラリア)  
研修期間: 2015年2月16日～3月20日(5週間)

2014年度 春期海外派遣プログラム & 国内英語強化プログラム応募受付中!

持って行って良かったものはある?

宿舍ってどんな感じ?

現地での食費って、実際にはどれくらい?

### 特別個別相談会開催!!

11月13日(木)、11月21日(金)

12:10～12:50 (語学シャワー室)

各プログラム参加経験者が、あなたの疑問に答えます!

あなたの体で



## 春期マレーシア・マラヤ大学英語研修プログラム

・研修期間: 2月23日～3月15日(三週間程度の予定)

・研修内容: 現地での10日間の英語による授業Outdoor Activityを通して現地の自然・歴史・文化を学ぶ。2日間のホームステイ体験 等

・選考基準: GPA, TOIECのスコア、及び申請書類の内容 等

・必要経費: 20万円程度(生活費除く)

(\* 給付奨学金7万円を受けることも可能)

★応募期間★  
11月10日  
～  
11月30日  
pm 5:15まで

特別個別相談会 11月13日(木)、11月21日(金) 語学シャワー室 12:10～12:50

\*2014 年度春期\*

# 大山短期集中英語研修



海外留学の前に

大山で鍛える!

研修先: 大山共同研修所

研修期間: 平成27年3月下旬 6泊7日程度

応募条件: 全学部生、大学院学生

費用: 2万~2万5千円程度!

問い合わせ先: グローバル人材育成推進室(村島、田村)

[murashima@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:murashima@adm.tottori-u.ac.jp)(0857-31-5321)

特別個別相談会 11月13日(木)、11月21日(金) 語学シャワー室 12:10~12:50

## 2014年度春期海外派遣プログラム&国内英語強化プログラム

鳥取大学には、長期休みを利用した語学研修や文化体験など、海外で学ぶ多くのプログラムがあります。時間がない等の理由で、海外のプログラムへの参加が難しい方には、国内で学ぶプログラムもあります。この春休みには、海外プログラムが4つ、国内プログラムが1つ行われます。応募条件、方法等は次の通りです。多くの皆さんのご応募をお待ちしています。

募集期間: 2014年11月10日(月)~11月30日(日)

### 2014年度春期プログラム一覧

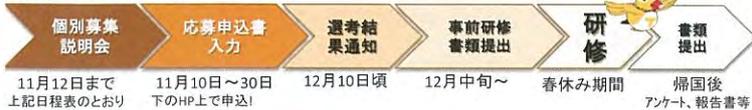
海外派遣プログラム名	研修先	研修日程(期間)	言語
台湾銘傳大学英語研修	銘傳大学	2月下旬~3月中旬(約3週間)	英語
マレーシア・マラヤ大学英語研修	マラヤ大学	2月下旬~3月中旬(約3週間)	英語
春期アメリカ英語研修	7-カンソウ大学	2月中旬~3月上旬(約3週間)	英語
春期オーストラリア英語研修	77'レド'大学	2月中旬~3月下旬(約5週間)	英語

国内英語強化プログラム名	研修先	日程(期間)	言語
大山短期集中英語研修	大山共同利用研修所	3月(約1週間)	英語

特別個別相談会開催! 個別募集説明会とは別に、11月13日(木)、21日(金)のお昼休みに、語学シャワー室にて、研修参加経験のある学生から直接話を聞ける特別個別相談会を設けます。設置するブースは、台湾銘傳英語研修、マレーシア・マラヤ英語研修、春期アメリカ英語研修、大山短期集中英語研修の4つです。研修参加経験者から1対1で質問ができる貴重な機会です! 気軽にお昼ご飯を持ってきてください、お待ちしております!

### 募集から研修参加までの流れ



募集要項はホームページからダウンロード可能。  
[http://global.ciatu.tottori-u.ac.jp/page\\_assets/attachments/256/2014springHP.pdf](http://global.ciatu.tottori-u.ac.jp/page_assets/attachments/256/2014springHP.pdf)  
 ホームページ上の募集の内容は、右下の二次元バーコードを読み取れば、携帯電話、スマートフォンからでも確認できます。

募集申請 ホームページの応募申請ページより応募出来ます。

<http://global.ciatu.tottori-u.ac.jp/online-application>



### 問い合わせ先

鳥取大学グローバル人材育成推進室地域学部棟 2F

電話0857-31-5359 内線2739

E-mail: [global@ml.global.tottori-u.ac.jp](mailto:global@ml.global.tottori-u.ac.jp)

## 語学プログラム応募までの3ステップ

### ①URLの入力

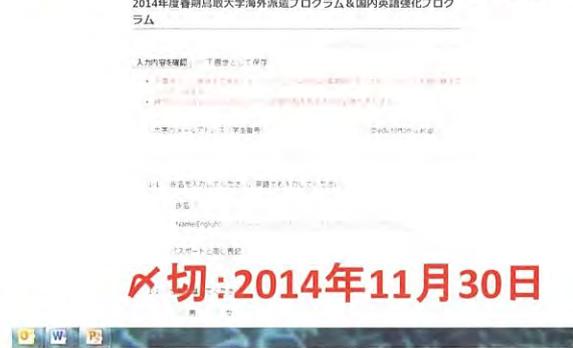
<http://global.ciatu.tottori-u.ac.jp/online-application>



### ②クリック



### ③内容の入力



# ドコ行く?





【お問い合わせ先】

鳥取大学グローバル人材育成推進室

〒680-8550 鳥取市湖山町南 4 丁目 101

TEL 0857-31-5359

ホームページ : <http://global.ciatu.tottori-u.ac.jp/ja>

Facebook : <https://www.facebook.com/tottoriglobal>

